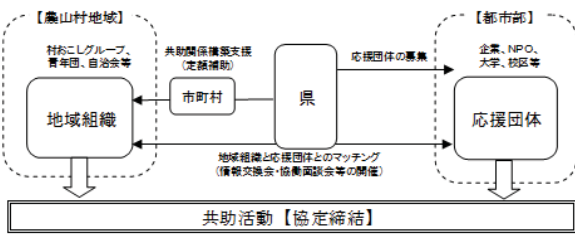


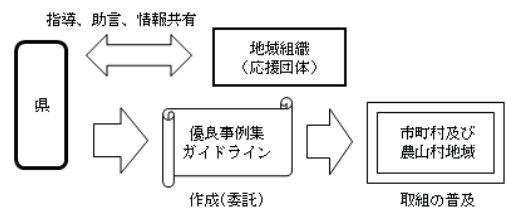
--	--	--	--	--	--



平成25、26年度  
・共助関係構築支援、地域組織と応援団体とのマッチング




平成27年度  
・モデル地区の事業推進、ガイドライン等の作成、普及






	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
--	---


	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	

事業名	ふくおか食の安全・安心対策事業	部課(室)	農林水産部 食の安全・地産地消課	事業 開始年度	H17
-----	-----------------	-------	---------------------	------------	-----

総合 計画	10の事項	2	災害や犯罪、事故がなく、安全で安心して暮らせること	中項目	3	暮らしの安全・食の安全を守る
	小項目	2	食の安全・安心の確保	施策	1	食の安全・安心の確保

**1 事業のねらい・目的**  
 県民の関心が高い食品の生産から消費に至る安全性確保対策として、生産段階では生産工程管理（GAP）を、消費段階では食品表示の適正化を推進し、安全・安心な県産農林水産物を県民に提供することにより、県産農林水産物の消費拡大を図る。

**2 事業概要**

- 生産工程管理（GAP）推進事業
  - GAPの実践支援等
- 食品表示適正化推進事業
 

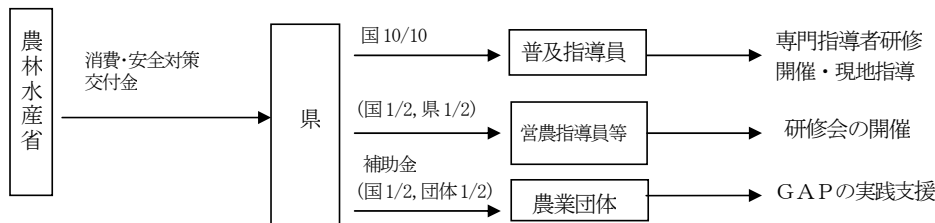
消費者の食品表示に対する信頼を確立し、安心して食品を選択できるよう、食品表示制度の適正化を図る。

  - 食品小売店舗巡回調査・指導
  - 食品表示制度普及・啓発
  - 食品表示監視
- 事業主体
 

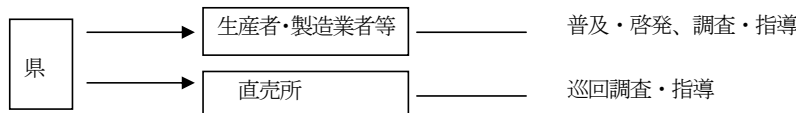
生産工程管理推進事業・・・県、農業団体等  
 食品表示適正化推進事業・・・県

【事業スキーム図】

1. 生産工程管理（GAP）の実践



2. 食品表示適正化の推進



3 事業目標等

成果指標		H23	H24	H25	H26	H27	H28
1. GAP導入産地数（園芸品目の主要産地）	目標	81	90	105	120	132	/
	実績	81	81	95	89	調査中	
2. 食品製造業者向け食品表示法説明会の受講業者数	目標					1,260	1,260
	実績					1,690	

【指標の考え方】

- 水田作物（米・麦・大豆）の主要産地の大半がGAPを実践しているのに対し、園芸作物（野菜・果樹）の取組が伸び悩んでいることから、園芸品目（野菜・果樹）の主要産地にGAPを導入する数を指標として設定。
- 食品表示に係る制度を一元化した食品表示法（平成27年4月1日施行）の周知を図るため、平成27年度から食品製造業者向け食品表示法説明会の受講業者数を指標に変更。5年間で県内6,300社の受講を目標とし、年間1,260社の受講を目指す。

【目標達成状況、未達成のときはその理由】

- GAP
  - 平成27年度の「GAP導入産地数（園芸品目の主要産地）」は、現在調査中。
  - 平成26年度に実施したGAPに取り組んでいない産地へのアンケート結果では、取り組まない理由として「GAPを産地に導入するための指導者がいないため」が最も多く、GAPに取り組む目的等を産地に説明できる指導者の育成が大きな課題となっている。

2. 食品表示適正化

食品表示法が平成27年4月1日に施行されたことから、開催回数を昨年度の延べ5回から延べ13回に倍増させるとともに、開催時期も秋から春へ変更して実施した。

4  
有効性・効率性

【事業の有効性】

1. GAP

農作業の各工程を記録・点検することで農産物の品質や安全性の向上だけでなく、生産者の経営改善が図れるGAPを実践する意義を生産者に理解させるには、GAPに精通した指導者を育成し、生産者を指導することが有効である。

2. 食品表示適正化

製造業者や生産者を対象とした説明会の開催や直売所等に対する表示状況調査を実施することにより、食品表示制度の普及啓発を継続的に行うことで、食品表示の適正化が図られ有効である。

【事業の効率性】

1. GAP

GAPを実践する産地を効率的に増やすため、専門指導者研修の実施により、産地を指導する普及指導員等の育成に取り組み、産地が自ら行う取組を支援することで効率化が図られる。

2. 食品表示適正化

食品表示制度の普及・啓発と実地調査・指導を並行して行うことにより、効率的に適正化が図られる。

5 事業費(千円)	H26決算	H27当初	H28当初	人件費	H26	H27	H28
歳出	4,572	8,068	1,374	時間	336H	4,688H	3,750H
(うち一般財源)	3,022	2,376	1,374	人件費(千円)	1,381	19,259	15,405

6 見直しの内容

継続 ( 拡充 改善(実施方法の大きな変更等を伴うもの) 一部改善  縮小 )  
 終了 ( 完了 再構築(他の事業に組み替え) 廃止 )

【上記の理由】

1. GAP

産地を指導する普及指導員等の育成等に取り組んだ結果、GAPの取組が園芸産地にも広く周知され、多くの産地に普及・定着したところである。

しかし、今後拡大が見込まれるインバウンド(訪日外国人旅行者)需要や農産物の輸出に対応するためには、民間団体が農産物の安全性を証明するGLOBALG.A.Pなどの安全認証の取得を進めることが有効である。

このことから、事業内容を見直し、国際安全認証を取得する産地の育成・支援に取り組むこととする。

2. 食品表示適正化

・ 特になし

【見直し内容】

(費用対効果の向上)

1. GAP

インバウンド需要などに対応するため、GLOBALG.A.Pなどの国際安全認証を取得する産地の育成・支援に取り組む事業を新たに立ち上げる。

2. 食品表示適正化

・ 特になし

(部局間の調整・連携)

・ 特になし

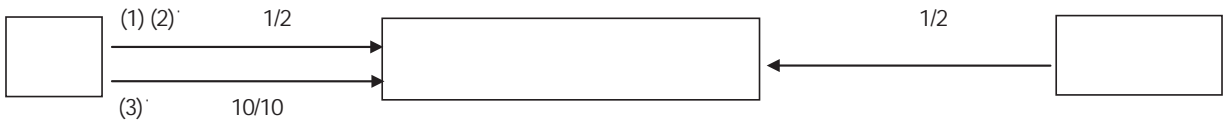
(その他)

・ 特になし

--	--	--	--	--	--


[ ]

[ ]

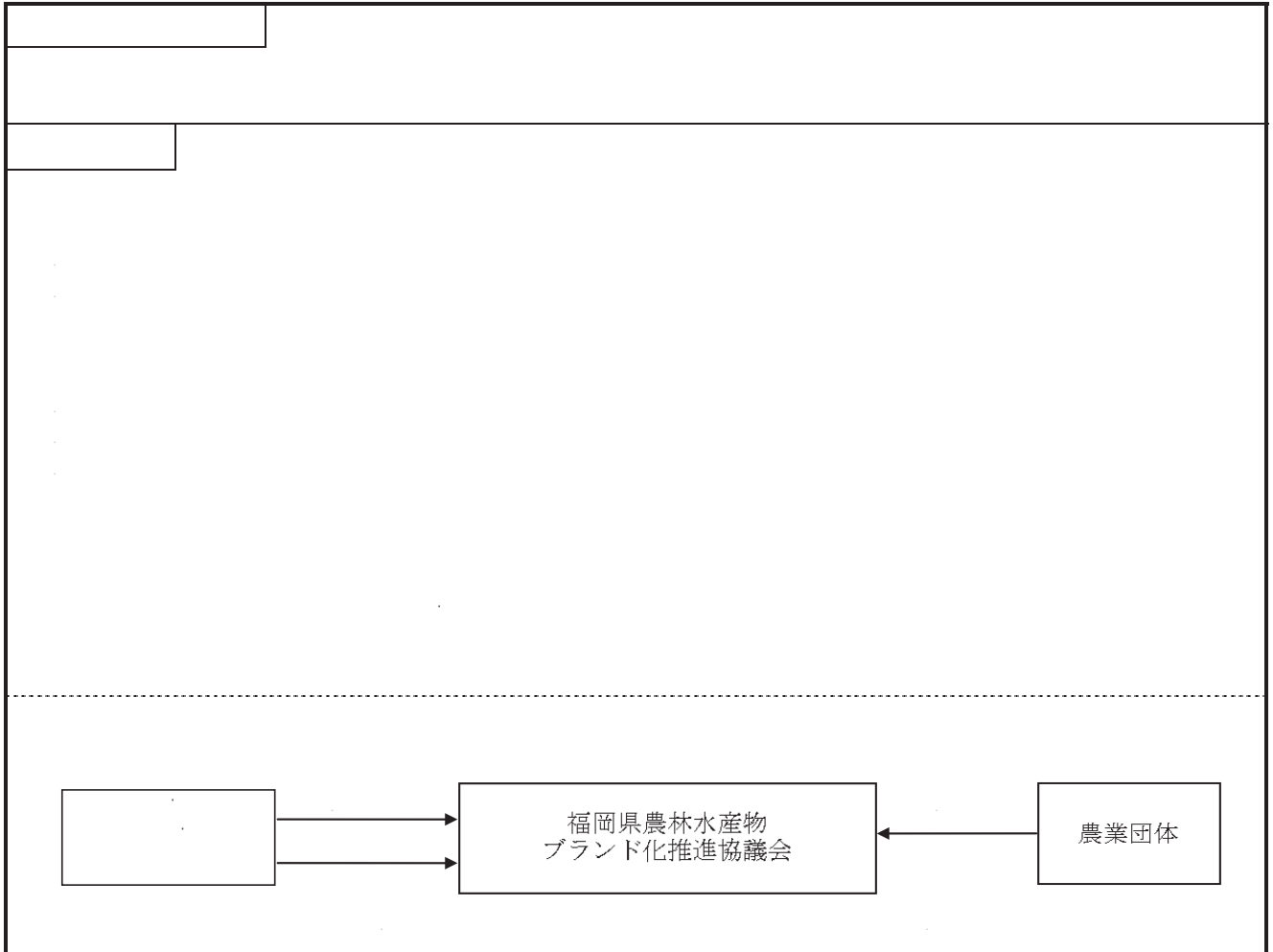


[ ]




○	○

--	--	--	--	--	--


--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

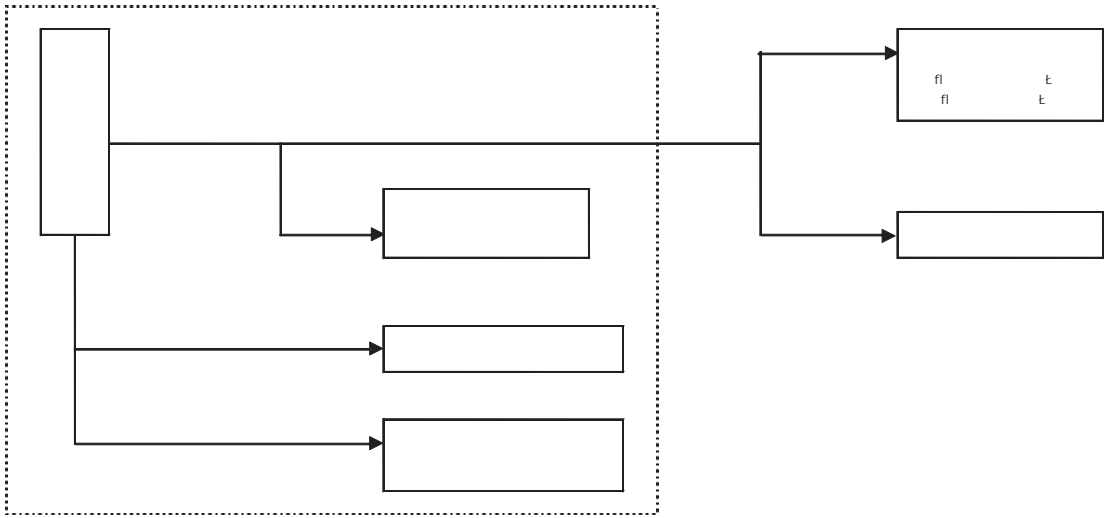
○	○



--	--	--	--	--	--


--

--



--


Large empty rectangular box with a dashed top border.

Rectangular box with a vertical line on the left side and a dashed horizontal line near the bottom.

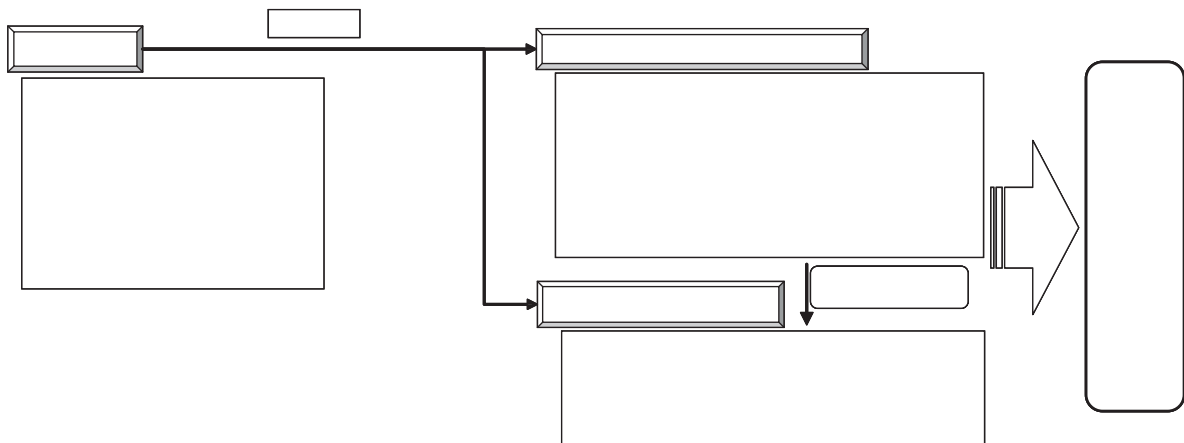

Large rectangular box containing a small rectangle in the top left corner, two ovals below it, and a dashed horizontal line near the bottom.

--	--	--	--	--	--


--

--




---


---



---

○ ○

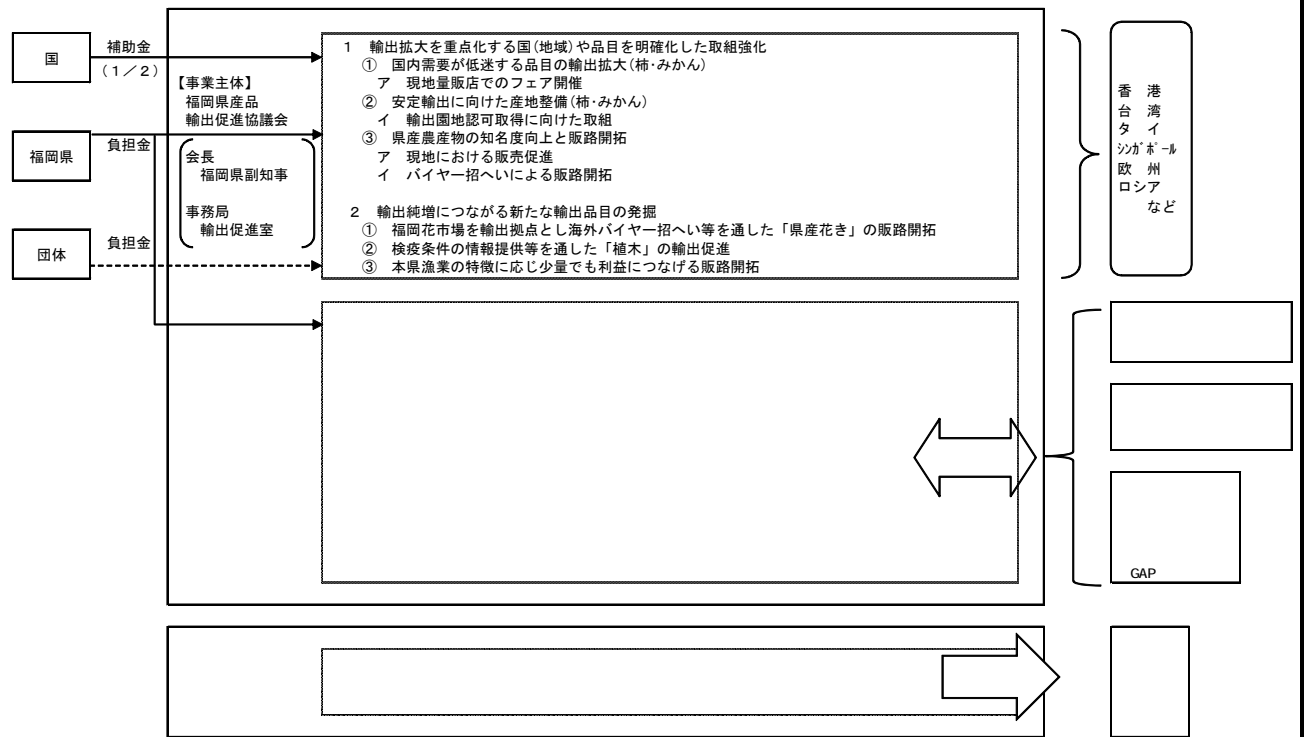
---

事業名	県産農林水産物輸出強化事業	部課(室)	農林水産部 園芸振興課輸出促進室、林業振興課、水産振興課	事業開始年度	H27
-----	---------------	-------	---------------------------------	--------	-----

総合計画	10の事項	1	活力にあふれ成長力に富んだ経済と雇用の創出	中項目	3	足腰の強い農林水産業をつくる
	小項目	2	多様な流通・消費に応じた県産農林水産物の生産と販売対策の推進	施策	3	県産農産物の輸出拡大
					4	木材需要に対応した供給体制の整備

1 事業のねらい・目的						
国内需要が先細りする中で、県産農林水産物の新たな販路を拡大し農林漁業者の所得向上を図るため、輸出を拡大する。						
2 事業概要						
1						
					( )	
2						
					( )	
27						
					27	
					27	

【事業スキーム図】



3 事業目標等

成果指標		基準 (H22)	H25	H26	H27	H28
農産物輸出額 (百万円) (総合計画)	目標	1,050	1,400	1,600	1,800	2,000
	実績	1,050	1,402	1,626	調査中	—

【指標の考え方】

- 「福岡県総合計画」の施策目標に沿って、成果指標を設定。

【目標達成状況、未達成のときはその理由】

- ・ 農産物輸出額については、目標の20億円に対し16億2,600万円(26年度)。
- ・ 26年度における県産農産物の輸出額は、野菜・果実をはじめ全体的に、円安傾向の継続や世界的な和食ブームに加え、販売促進フェアなどの取組により2億2,400万円増加。
- ・ 目標未達成の理由としては、リマン・ショック(20年9月)以降の世界的な不況に加え、23年度まで円高傾向が続いたことにより、輸出が20年から23度に伸び悩んだことによる。

4  
有効性  
・  
効率性

【事業の有効性】

- ・ 和食ブームを捉えた県産品の海外PR等については、県産農産物の安全性や美味しさを現地消費者に直接PRすることにより販路拡大が図られる。
- ・ ハラル等セミナーの開催については、相手先の取引条件をクリアすることにより新たな取引拡大が図られる。
- ・ 木材の輸出については、他県と連携しロットを確保することで、輸出コストの削減と価格交渉力の向上が図られる。

【事業の効率性】

- ・ 農産物については、県産農産物の使用(消費)に波及効果が高い海外の一流シェフや料理教室の受講生を事業対象し、また、一度に多く対象にPRができるミラノ万博を活用するなど、事業の効率化を図っている。
- ・ 木材については、他県との連携により事業の効率化を図っている。

5 事業費(千円)	H26決算	H27当初	H28当初	人件費	H26	H27	H28
歳出	40,429	54,191	55,468	時間	8,719	8,719	8,719
(うち一般財源)	40,429	54,191	55,468	人件費(千円)	35,818	35,818	35,818

6 見直しの内容

継続 ( 拡充 改善(実施方法の大きな変更等を伴うもの)  一部改善 縮小 )  
 終了 ( 完了 再構築(他の事業に組み替え) 廃止 )

【上記の理由】

- ・ 農産物の国内需要が縮小傾向にある中、県内農業生産の維持・拡大を図ることは極めて重要であることから、輸出による新たな需要の開拓を継続して行う必要がある。

【見直し内容】

(費用対効果の向上)

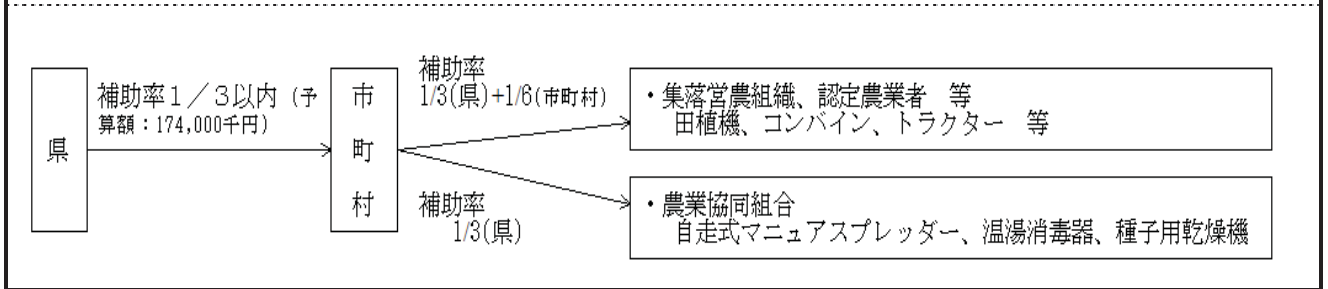
- ・ 輸出先のニーズに合わせた農産物を安定的に確保・供給する産地づくりを、農業者やJA等農業団体、県関係機関と連携して進める。
- ・ 販売促進フェア、商談会・見本市出展、セミナー、輸出に係る技術実証など輸出拡大の取組については、九州各県との連携を進める。

(部局間の調整・連携)

- ・ 事業実施にあたって、現地バイヤーから食品を含む取引要望があった場合には、食品業者を所管する商工関係課と連携し取り組む。
- ・ 現地でのフェア等の開催にあたっては、海外事務所を通じ現地業者と調整を図るなど、計画的に取り組む。
- ・ 販路開拓に向けた国際見本市等の出展にあたっては、JETROを積極的に活用して取り組む。

--	--	--	--	--	--





--	--


--	--

--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

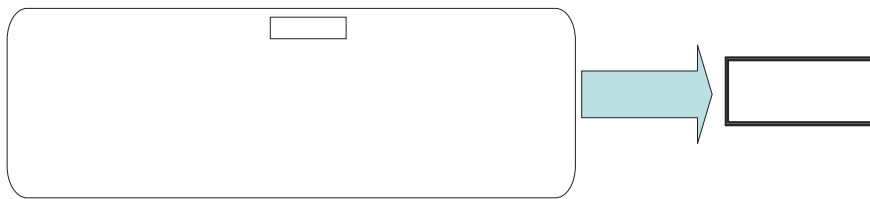


--	--	--	--	--	--


--

--

--



--

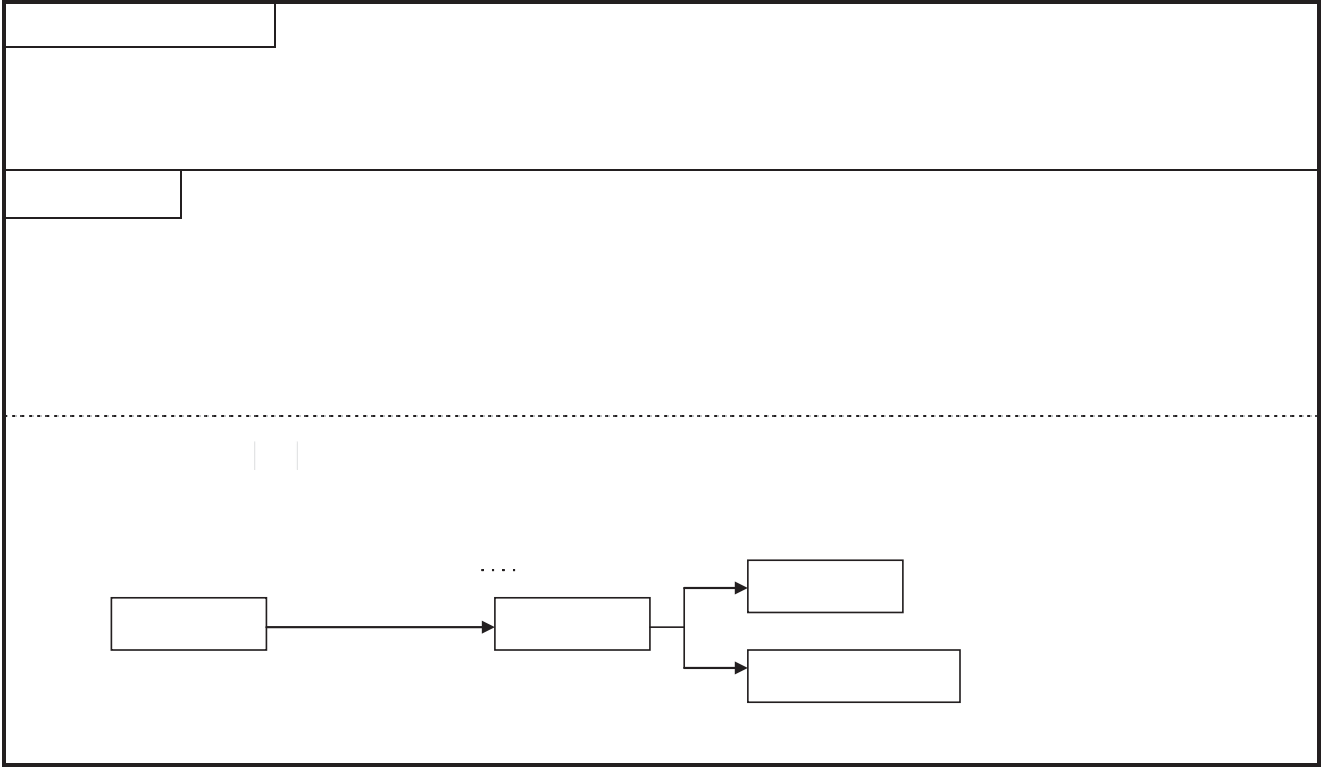

--

Large empty rectangular box with a dashed top border.

Rectangular box with a vertical line on the left side and a dashed horizontal line across the middle.


Large rectangular box containing a small shaded rectangle in the top-left corner, two ovals (one on the left, one on the right), and a dashed horizontal line near the bottom.

--	--	--	--	--	--

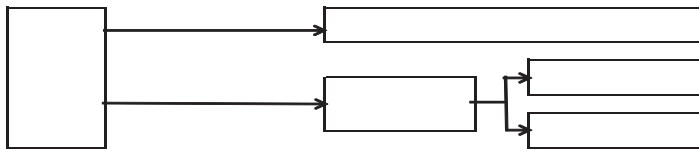
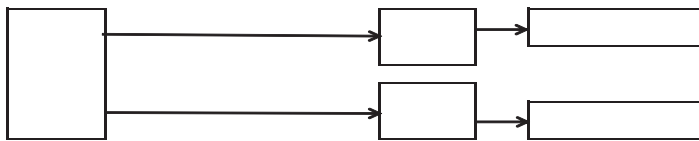



<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<hr/>	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	

--	--	--	--	--	--


--

--



--


--

--	--

---


---

○	○

---

--	--	--	--	--



---

--	--

---



<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

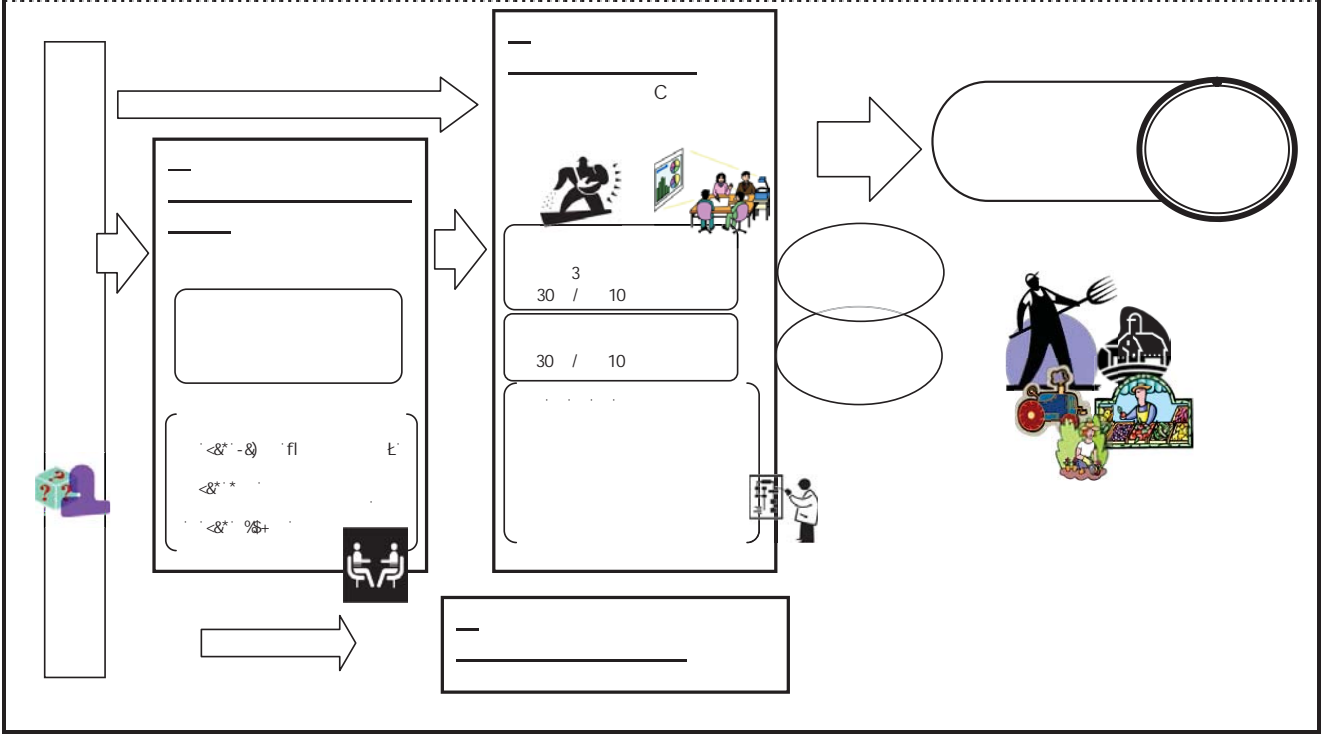


--	--	--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--



--	--	--	--	--	--	--	--


Blank rectangular area with a dashed horizontal line near the top.

Blank rectangular area with a dashed horizontal line near the top and a vertical line on the left side.

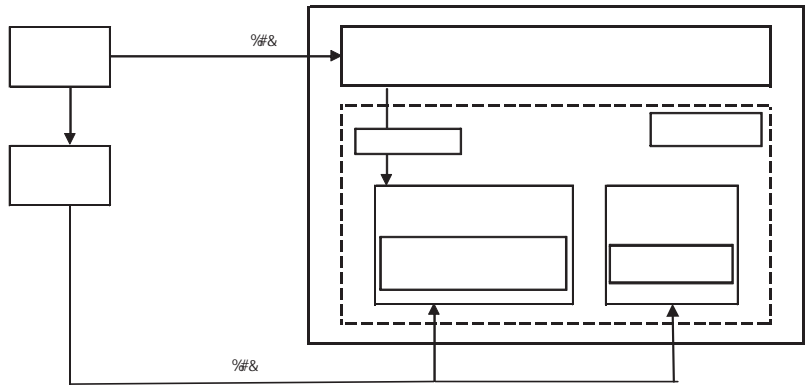

Large rectangular area with a dashed horizontal line near the top, two circles, and a small rectangular tab on the left side.

--	--	--	--	--	--


--

--



--



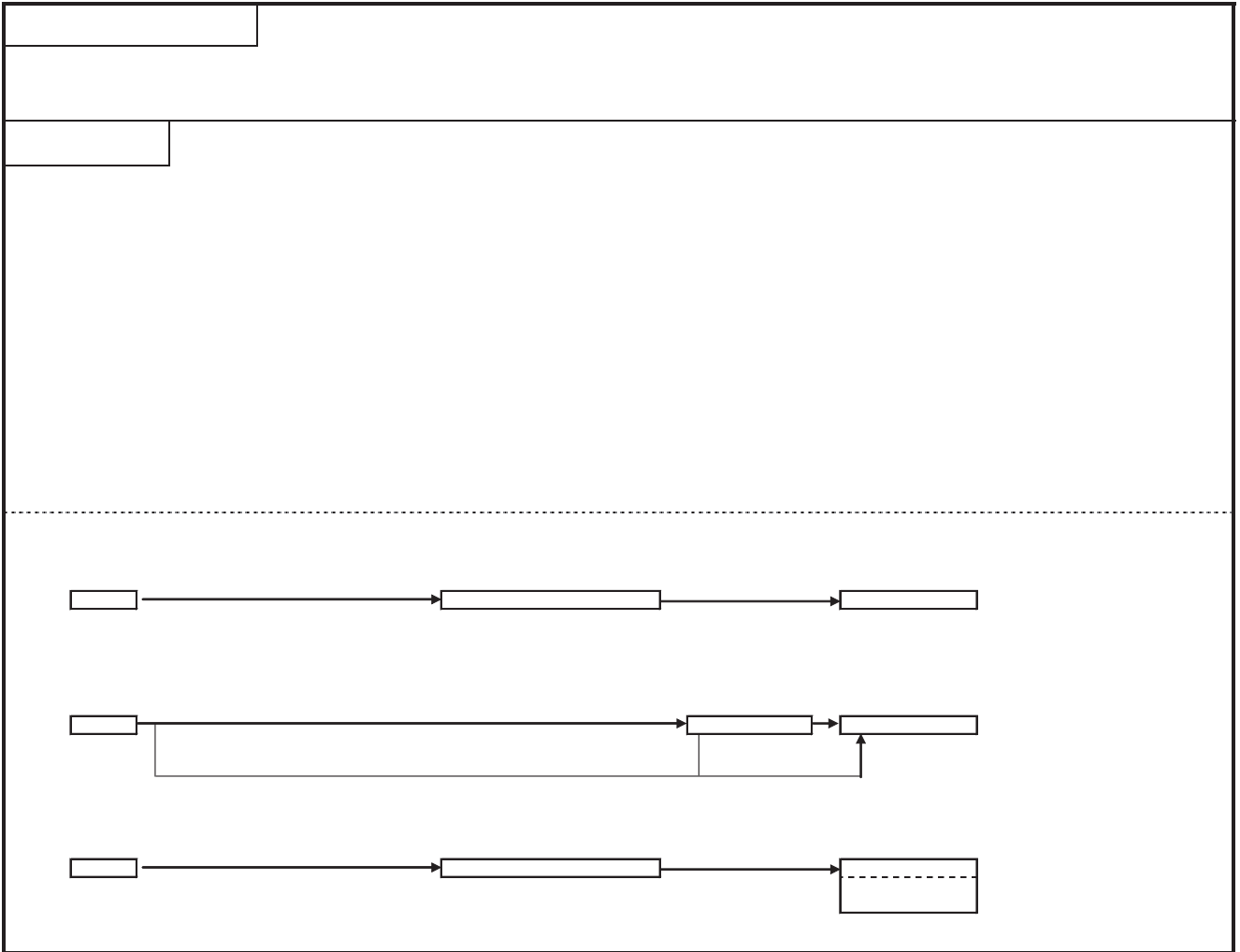

--

--



--	--	--	--	--	--



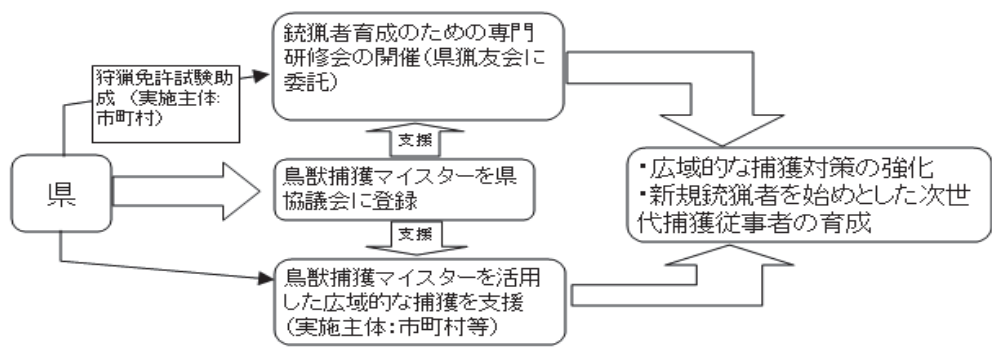


--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--



	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;"></td><td style="width: 15%;"></td><td style="width: 15%;"></td><td style="width: 15%;"></td><td style="width: 15%;"></td><td style="width: 15%;"></td><td style="width: 15%;"></td><td style="width: 15%;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																

---

--	--

---

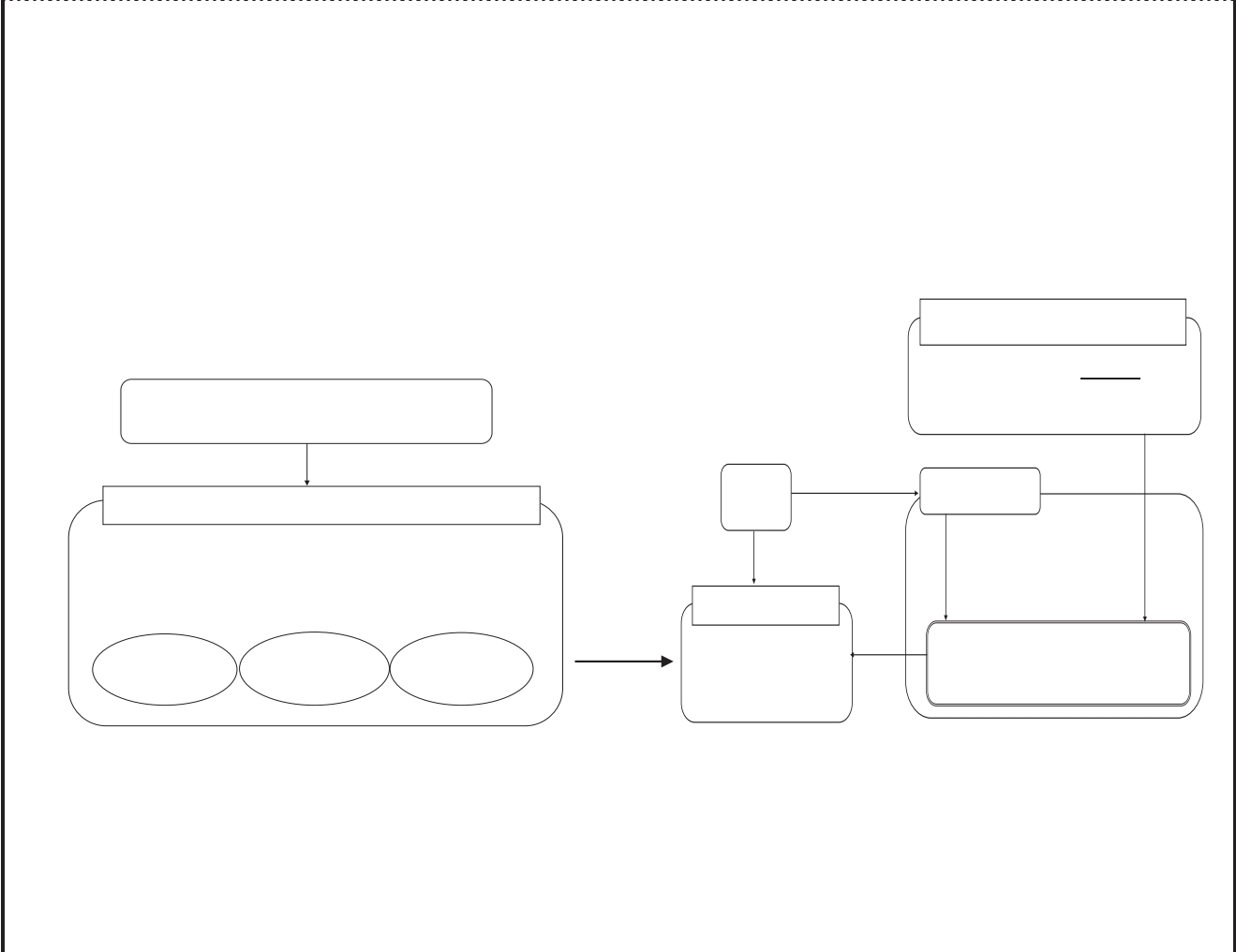

---

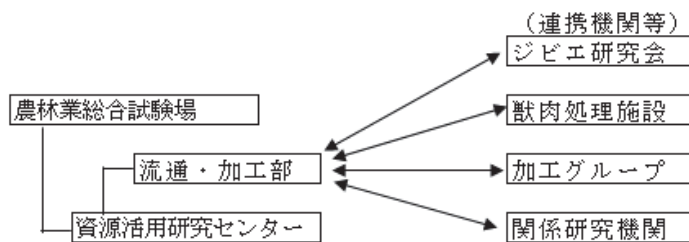
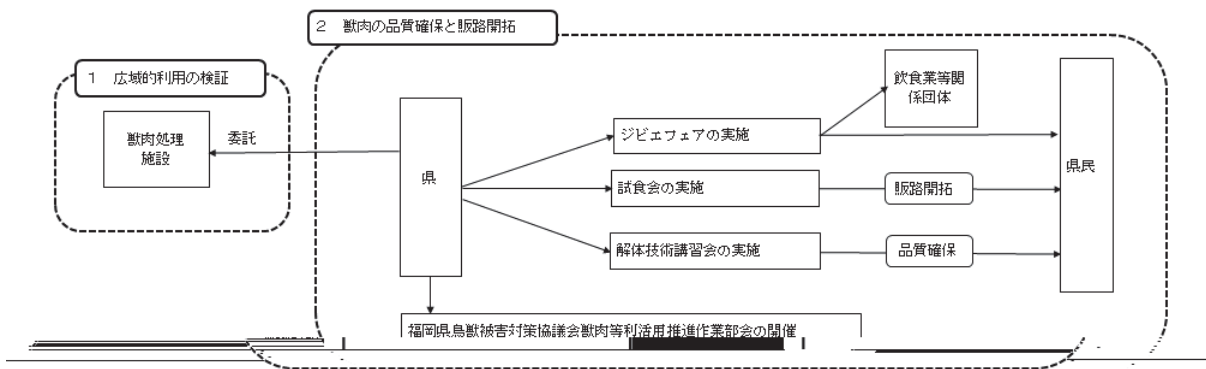
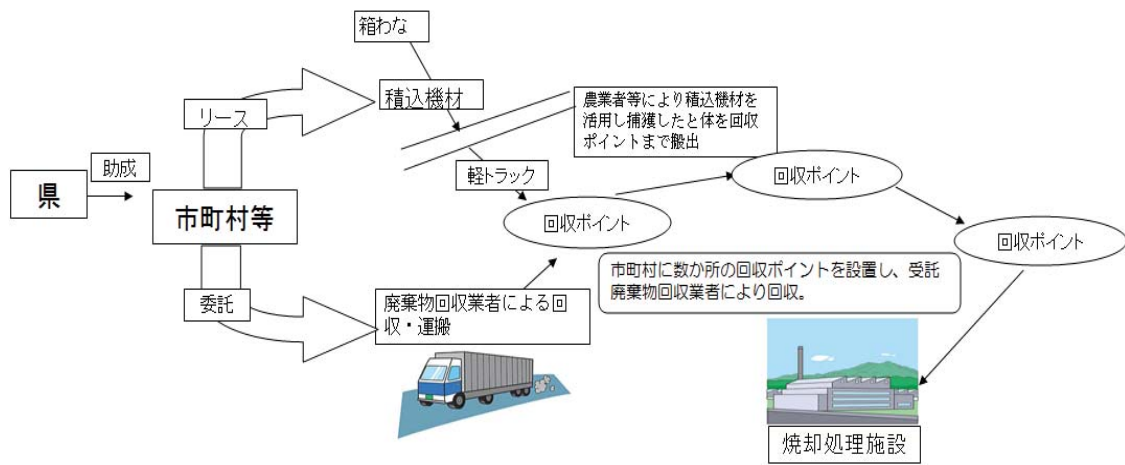
○	○

---



--	--	--	--	--	--




---

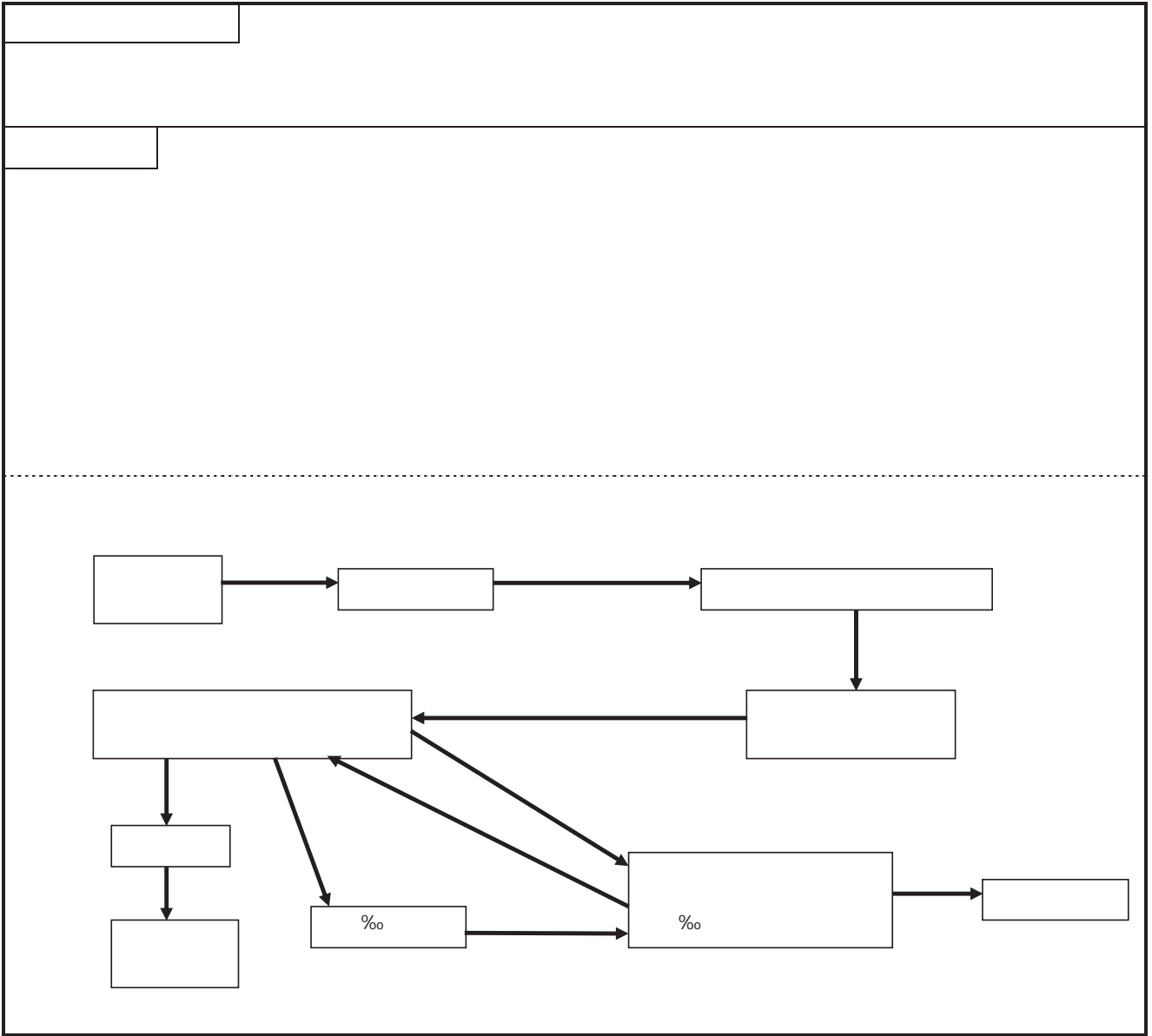

---


<input style="width: 40px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 40px; height: 15px;" type="text"/>

---



--	--	--	--	--	--


--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--

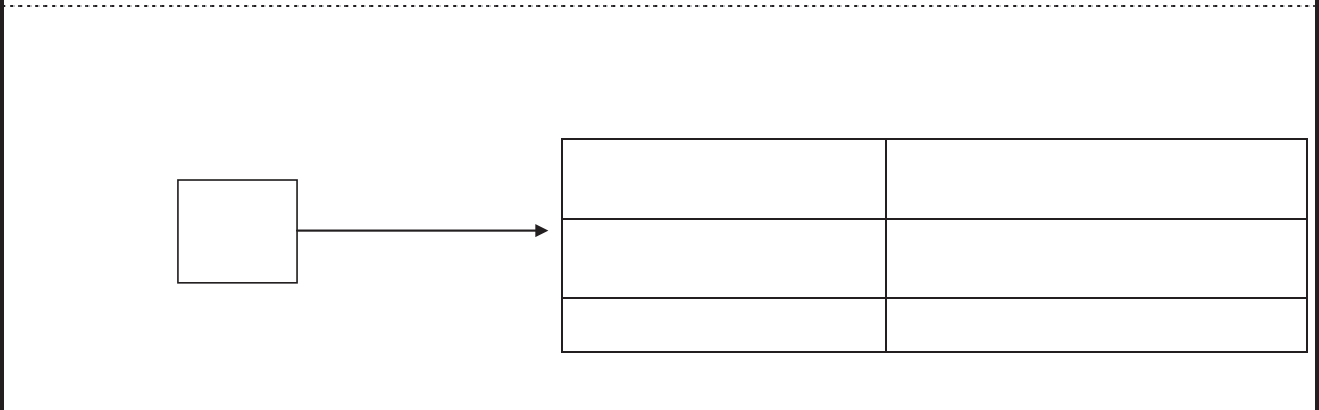
○ ○

--	--

--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--


---

--	--

---



---

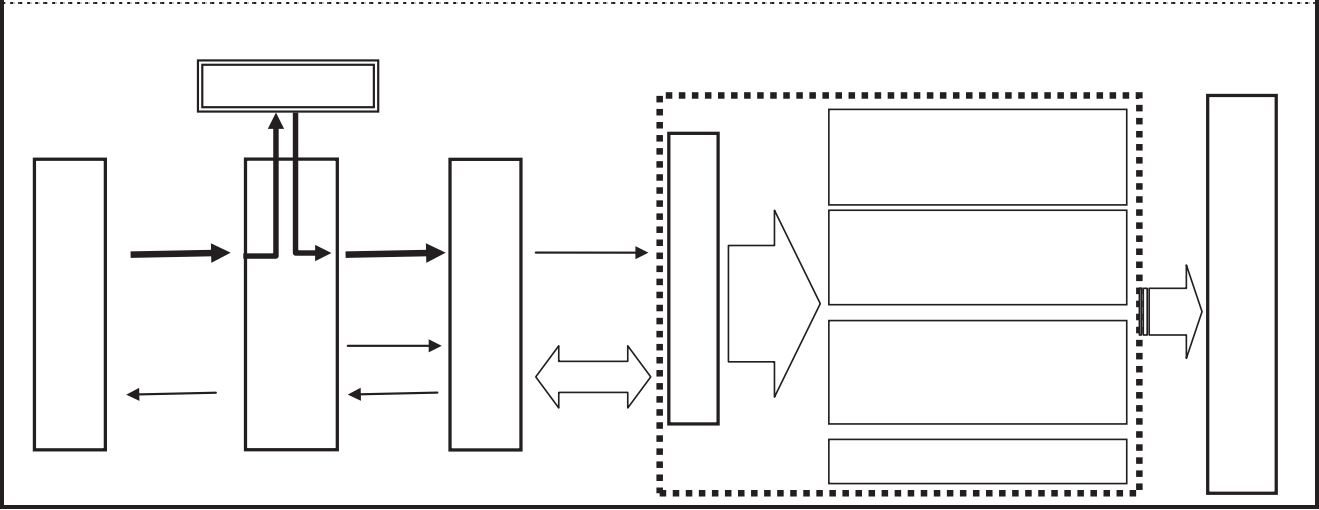
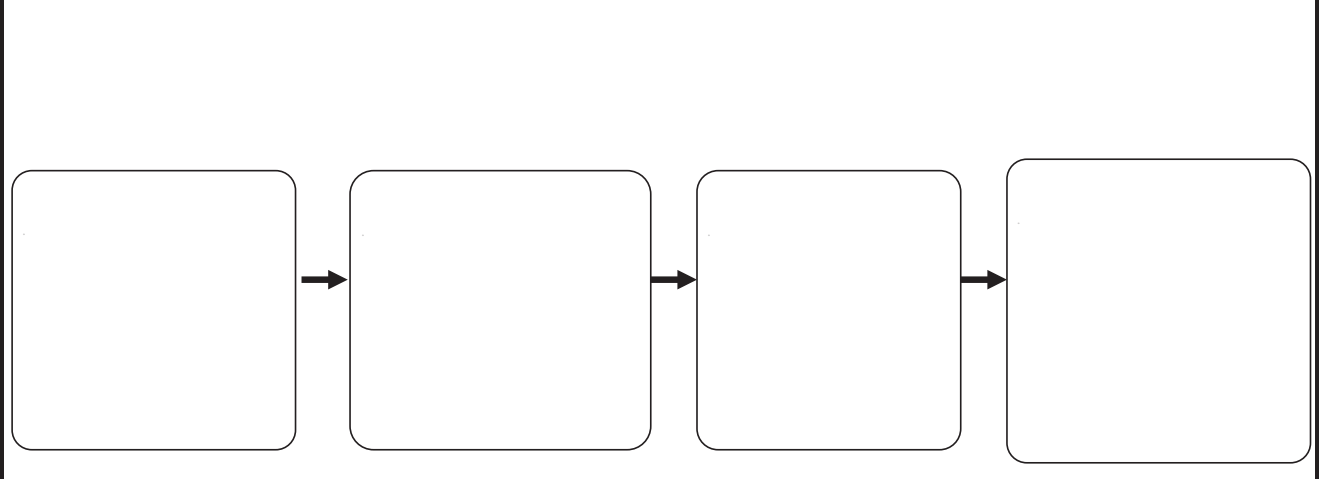
○ ○



--	--	--	--	--	--


--

--



--


--

--

--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

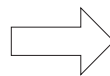
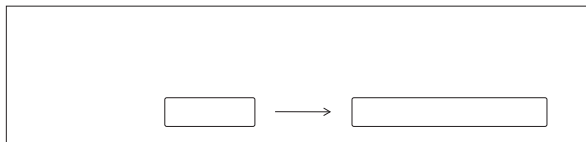
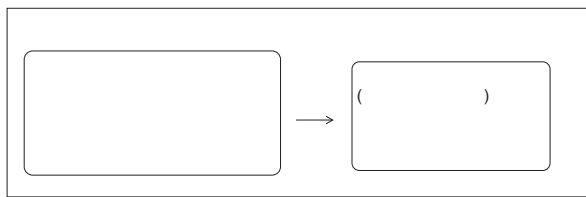
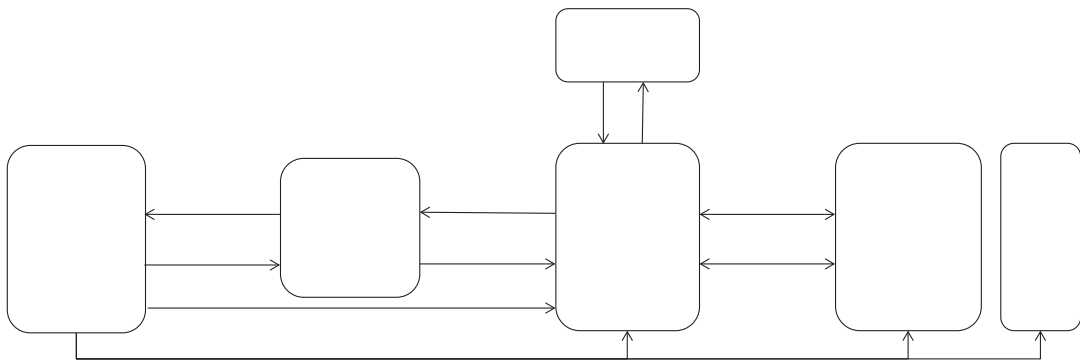
--	--

--	--	--	--	--	--


--

--

--




---


---

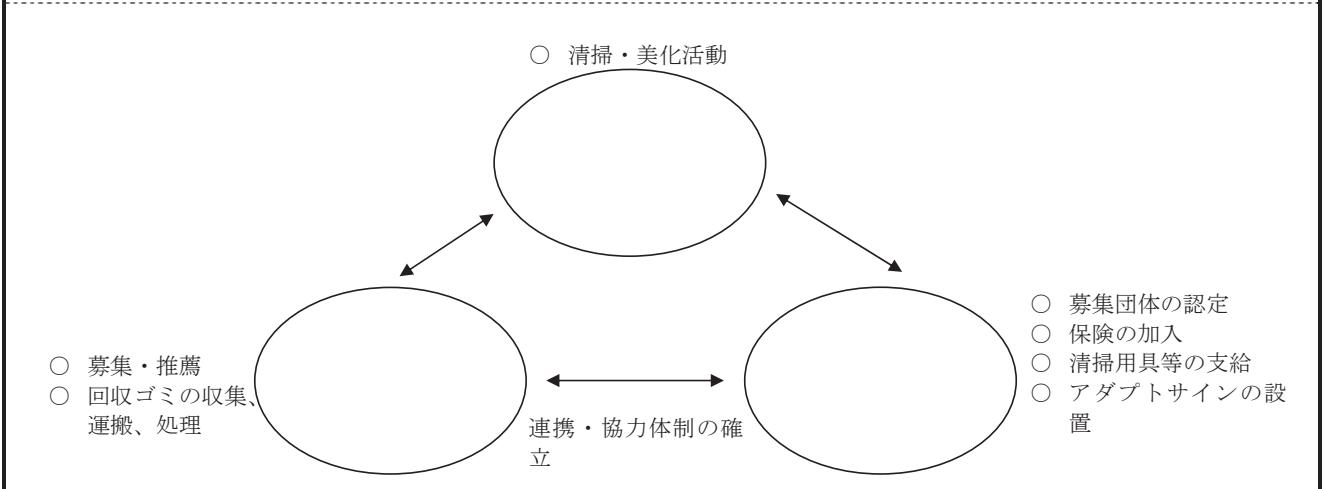


○ ○

---

--	--	--	--	--	--





--	--


--	--

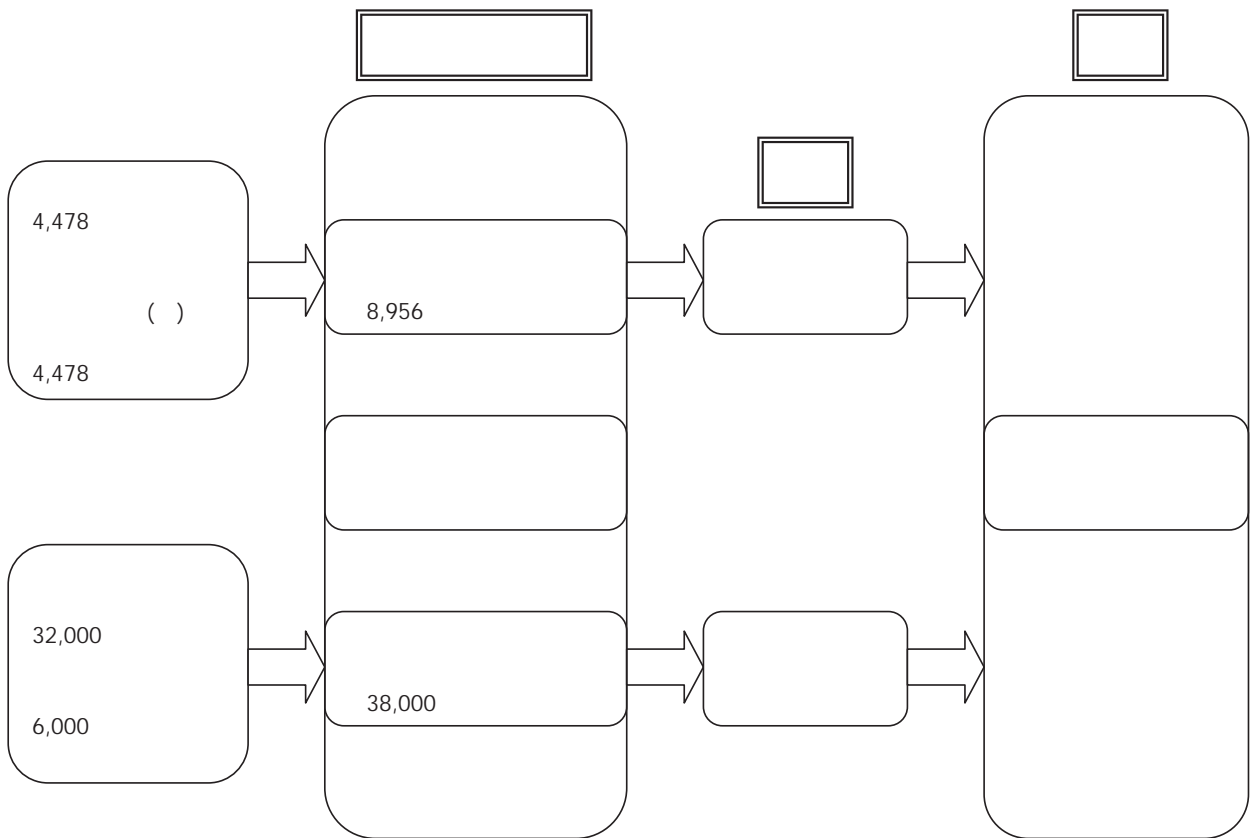
	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
--	---


<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	

--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--





---

--	--

---



---



--	--	--	--

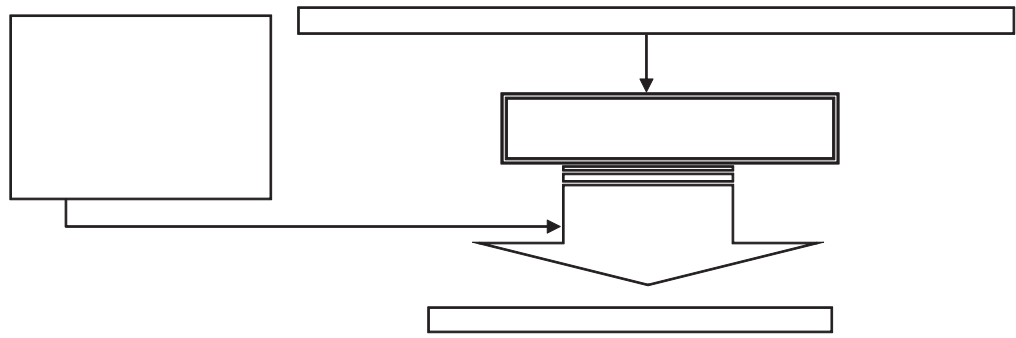

--	--

--	--



--	--	--	--

検討候補地区																					
候補地区																					
設定																					
実施																					




---

--	--

---


○ ○	

---

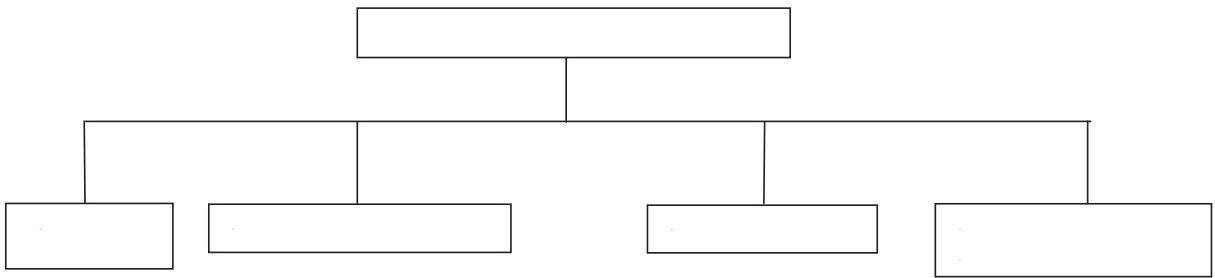
--	--	--	--	--


--	--

--	--









--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		福岡県
--	--	-----

### 3 事業目標等

成果指標		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
被災建築物応急危険度判定士登録件数	目標	3,800人	3,800人	2,500人	2,600人	2,600人	2,600人	2,600人
	実績	2,286人	2,377人	2,284人	2,329人	2,344人	調整中	

#### 【指標の考え方】

・被災時に迅速な被災建築物の応急危険度判定活動を行い、二次災害を防止することを目標とする。その指標として、地域防災計画に定める被災建築物応急危険度判定士登録者数を設定。平成24年度に地域防災計画の見直しがされたため、この見直しに伴って新たに目標を設定した。

#### 【目標達成状況、未達成のときはその理由】

・被災建築物応急危険度判定士は5年ごとに更新を行っているが、更新予定者に対して実際の更新者が少ないため、このことが伸び悩みの大きな要因と考えられる。

4  
有効性  
・  
効率性

#### 【事業の有効性】

・福岡県西方沖地震では延べ444人、東日本大震災では延べ8,531人の被災建築物応急危険度判定士が活動しており、応急危険度判定士は二次災害の防止に寄与している。  
・毎年概ね100人が講習会を受講し、新規登録者となっている。また、更新予定者の再登録を推進している。

#### 【事業の効率性】

・講習会の開催や情報提供にあたっては、協議会を通じてポスターやパンフレットの送付を行うことにより周知するなど、協議会と連携することで、効率的に事業を実施した。

5 事業費（千円）	H26決算	H27当初	H28当初	人件費	H26	H27	H28
歳出	2,351	2,219	2,260	時間	771	782	777
（うち一般財源）	2,015	1,917	1,944	人件費（千円）	3,168	3,213	3,192

### 6 見直しの内容

継続（ 拡充      改善（実施方法の大きな変更等を伴うもの）       一部改善      縮小 ）  
 終了（ 完了      再構築（他の事業に組み替え）      廃止 ）

#### 【上記の理由】

・近年の被災時の状況を鑑みると、被災建築物応急危険度判定の必要性は更に高まっており、今後も周知方法や、更新時のため登録者の経過把握等、工夫をしながら登録者数を増やしていく努力が必要である。

#### 【見直し内容】

##### （費用対効果の向上）

・新規登録者（講習受講者）を増やすため、被災建築物応急危険度判定制度のパンフレットを作成し、建築士登録窓口や建築士事務所登録窓口で新たに建築士となる者や既に登録要件を満たしている者に配布し、登録の働きかけを強める。  
また、講習会の開催に際しては、行政機関、建築士関係団体への要請を行う。

・登録の更新漏れがないように、通知を徹底するとともに、既に更新期限切れとなった者に対しても再度の登録通知を行う。

(様式1号)

H27年度 事務事業評価書 (既存事業分)

事業名	建築物地震対策事業 (耐震診断費補助事業)		部課(室)	建築都市部 建築指導課	事業 開始年度	H26
総合計画	10の事項	2	災害や犯罪、事故がなく、安全で安心して暮らせること	中項目	1	災害に強いまちをつくる
	小項目	1	災害に強いまちの構築	施策	3	耐震化の推進

1 事業のねらい・目的

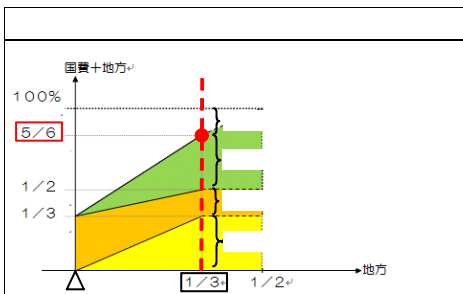
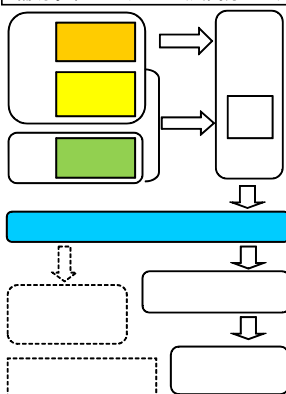
- 耐震診断が義務化された大規模建築物に対し、支援制度を創設することにより耐震診断を確実に実施させ、耐震化を促進
- 緊急避難道路等の「避難路沿道建築物」、災害時にその利用を確保することが必要な「防災拠点建築物」について、県耐震改修促進計画を改定し、新たに指定することにより、耐震診断を義務化し、耐震化を促進

2 事業概要

- 耐震診断費補助事業  
改正法により耐震診断が義務化された大規模建築物のうち、政令市以外の民間建築物に対し、耐震診断費用を補助
- 県耐震改修促進計画の改定  
防災拠点建築物、避難路沿道建築物の指定

【事業スキーム図】

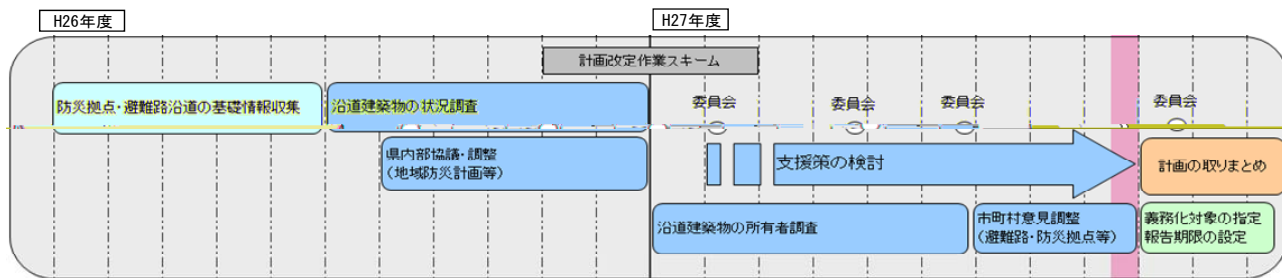
補助事業のスキーム (民間分のみ)



**国補助金** 補助事業を創設 (H25~H27)  
(耐震対策緊急促進事業)

**国交付金** 住宅・建築物安全ストック形成事業

				H26	H27
				0	0
		271	2	2	0
		4	2	2	0
		266	0	0	0
		1	0	0	0
		23	28	14	8
		8	10	6	2
		1	5	1	3
		6	1	0	1
		6	9	5	1
		2	1	1	0
		0	1	1	0
		0	1	0	1
		294	30	16	6



3 事業目標等

成果指標		H26	H27
・耐震診断費補助件数	目標	8	6
	実績	8	3

【指標の考え方】

- ・耐震診断が義務化された大規模建築物に対して、確実に耐震診断の報告を実施させる。

【目標達成状況、未達成のときはその理由】

- ・補助対象建築物14棟のうち、8棟が診断済み、3棟が診断中である。
- ・2棟が閉鎖・解体し、1棟が閉鎖予定であるため、補助実績は11件となっている。

4 有効性・効率性	<b>【事業の有効性】</b> ・耐震診断費を補助することにより、所有者は耐震診断に取り組みやすくなり、耐震化の促進へ寄与している。 ・県耐震改修促進計画を改定し、総合的かつ計画的に耐震化を促進することにより、災害時の人的・経済的被害の軽減へ繋がる。
	<b>【事業の効率性】</b> ・耐震化の進捗状況、改正法の内容を踏まえ、現状に即した計画へ改定することにより、重点的かつ効率的な耐震化の促進を図る。

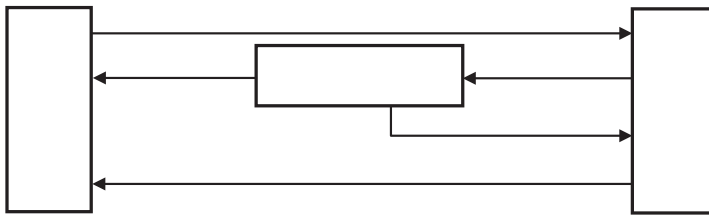
5 事業費（千円）	H26決算	H27当初	H28当初	人件費	H26	H27	H28
歳出	82,342	41,776	—	時間	1,277	1,996	—
（うち一般財源）	41,174	21,143	—	人件費（千円）	5,246	8,200	—

6 見直しの内容	
継続（ 拡充 <input checked="" type="radio"/> 終了 <input checked="" type="radio"/> 完了	改善（実施方法の大きな変更等を伴うもの） 再構築（他の事業に組み替え）
一部改善 縮小	廃止
<b>【上記の理由】</b> ・耐震診断の報告期限が平成27年12月末であり、補助事業の期間もそれに合わせ平成27年度までとしているため。 ・県耐震改修促進計画の改定を平成28年3月に行う予定であり、改定作業が完了するため。	
<b>【見直し内容】</b>           	



--	--	--	--	--	--



--	--

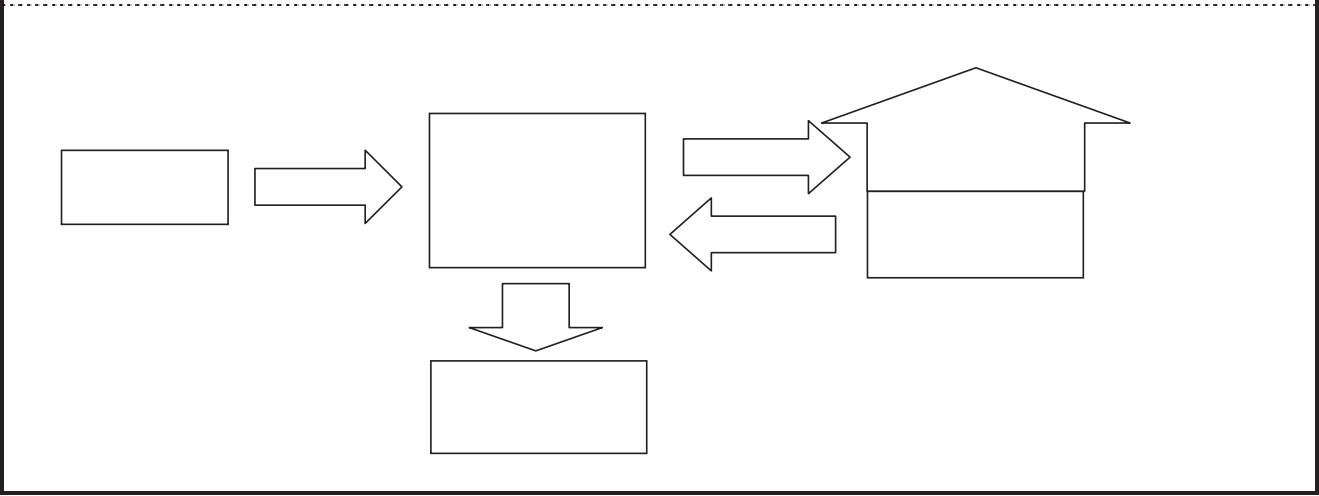





--	--	--	--	--	--


--


--



--


--

--	--




---


<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	

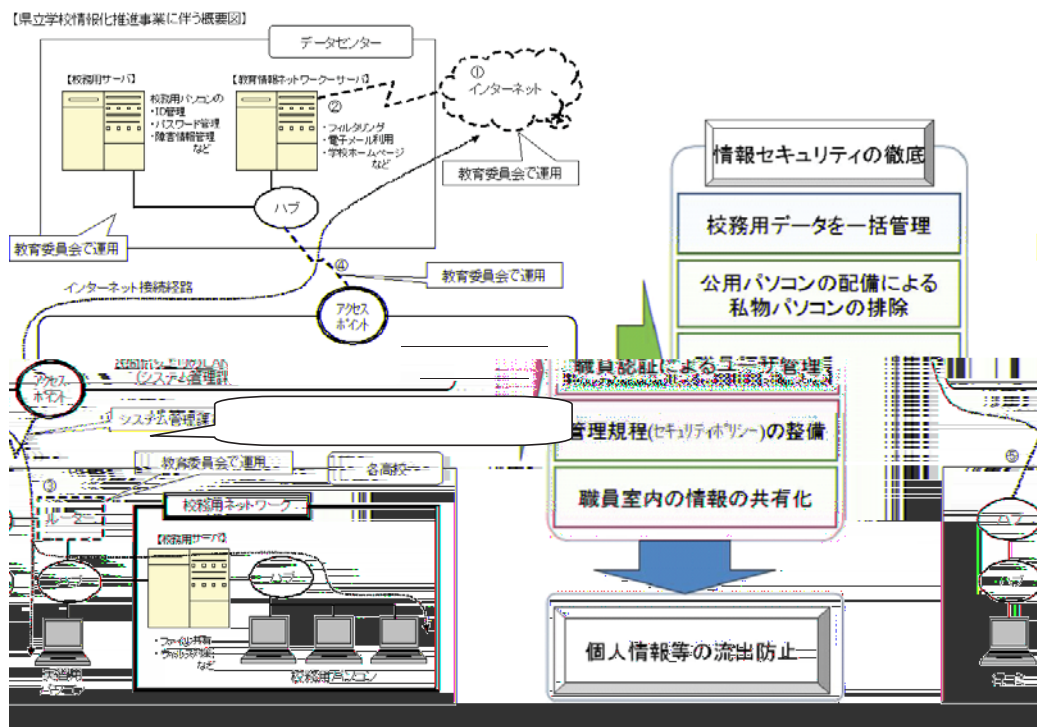
---

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--




---

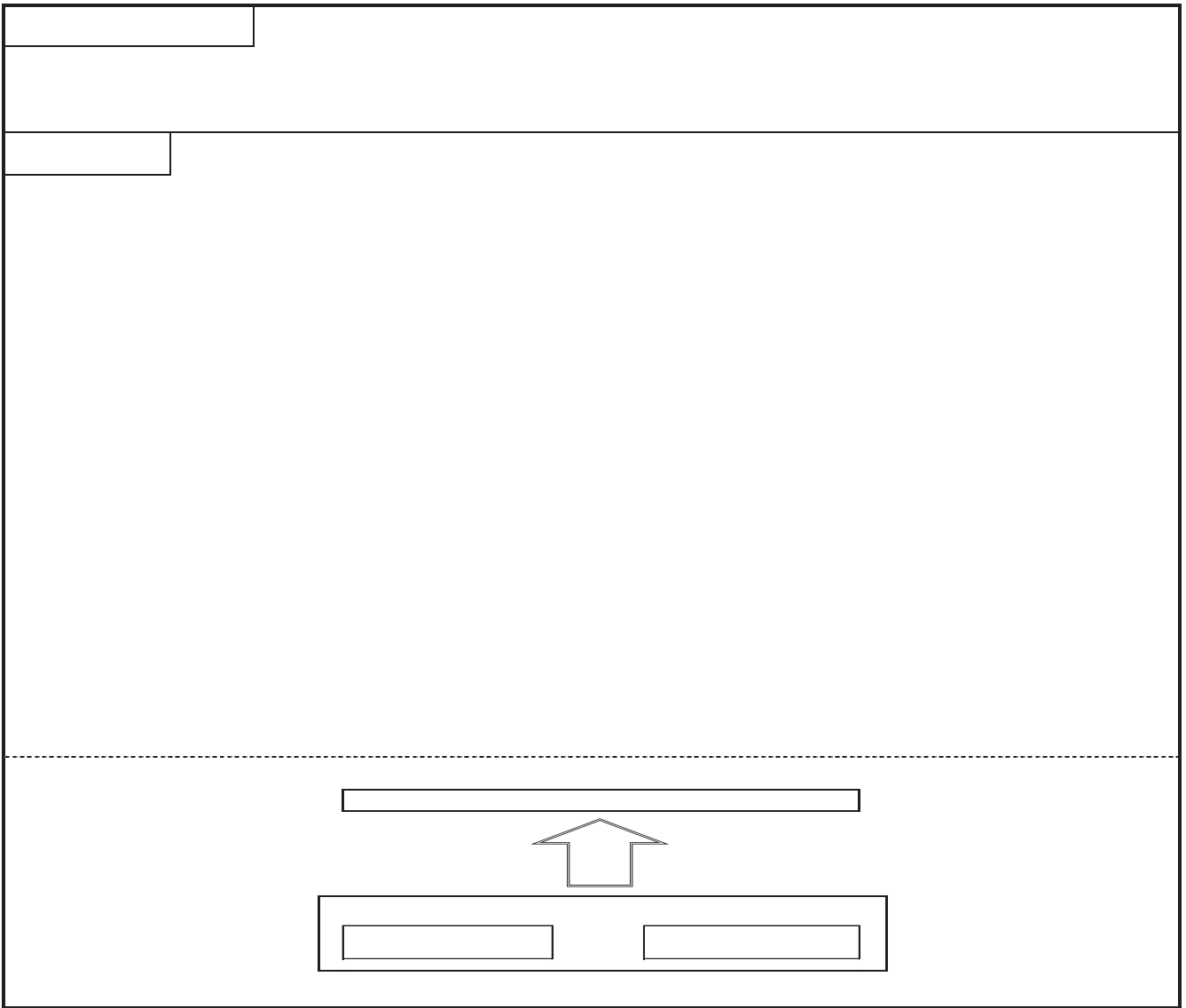

---


<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

---



--	--	--	--	--	--


	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
--	---

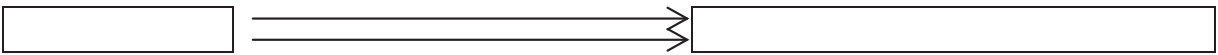

	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div style="width: 20%;"><input type="checkbox"/></div><div style="width: 60%;"><input type="checkbox"/></div><div style="width: 20%;"></div></div>
	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>

--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--











Large empty rectangular box with a dashed top border, likely for a title or header.

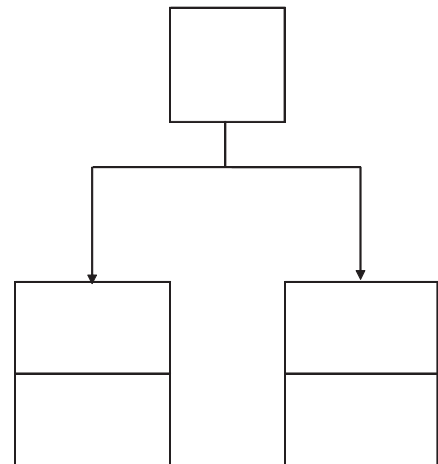
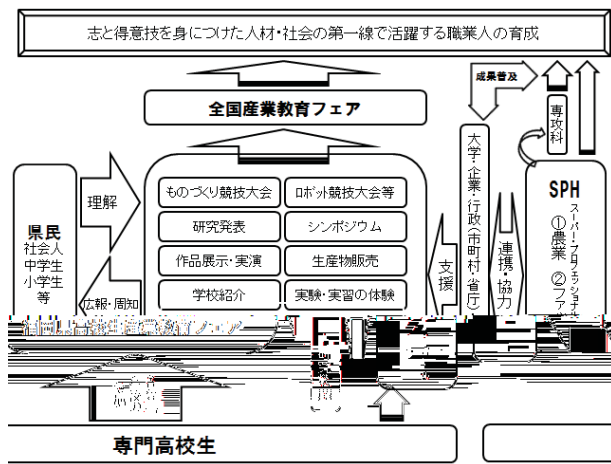
Large empty rectangular box with a vertical line on the left side and a dashed horizontal line near the bottom, likely for a main body of text.


Large empty rectangular box with a small rectangular tab on the top left, two ovals on the top edge, and a dashed horizontal line near the bottom, likely for a main body of text or a signature area.

--	--	--	--	--	--


--	--

--	--



--	--


--	--

Empty rectangular box with a dashed top border.

Large empty rectangular box with a vertical line on the left side and a dashed horizontal line near the bottom.

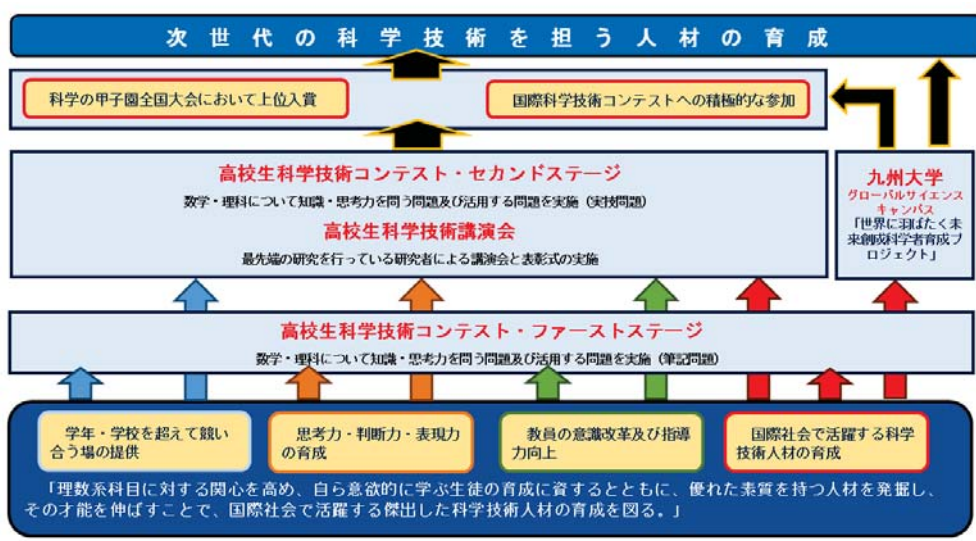

Large empty rectangular box with a horizontal line near the top, a dashed horizontal line near the bottom, and two small empty rectangular boxes on the top line.



--	--	--	--	--	--


--	--

--	--




---


---


○	○

---

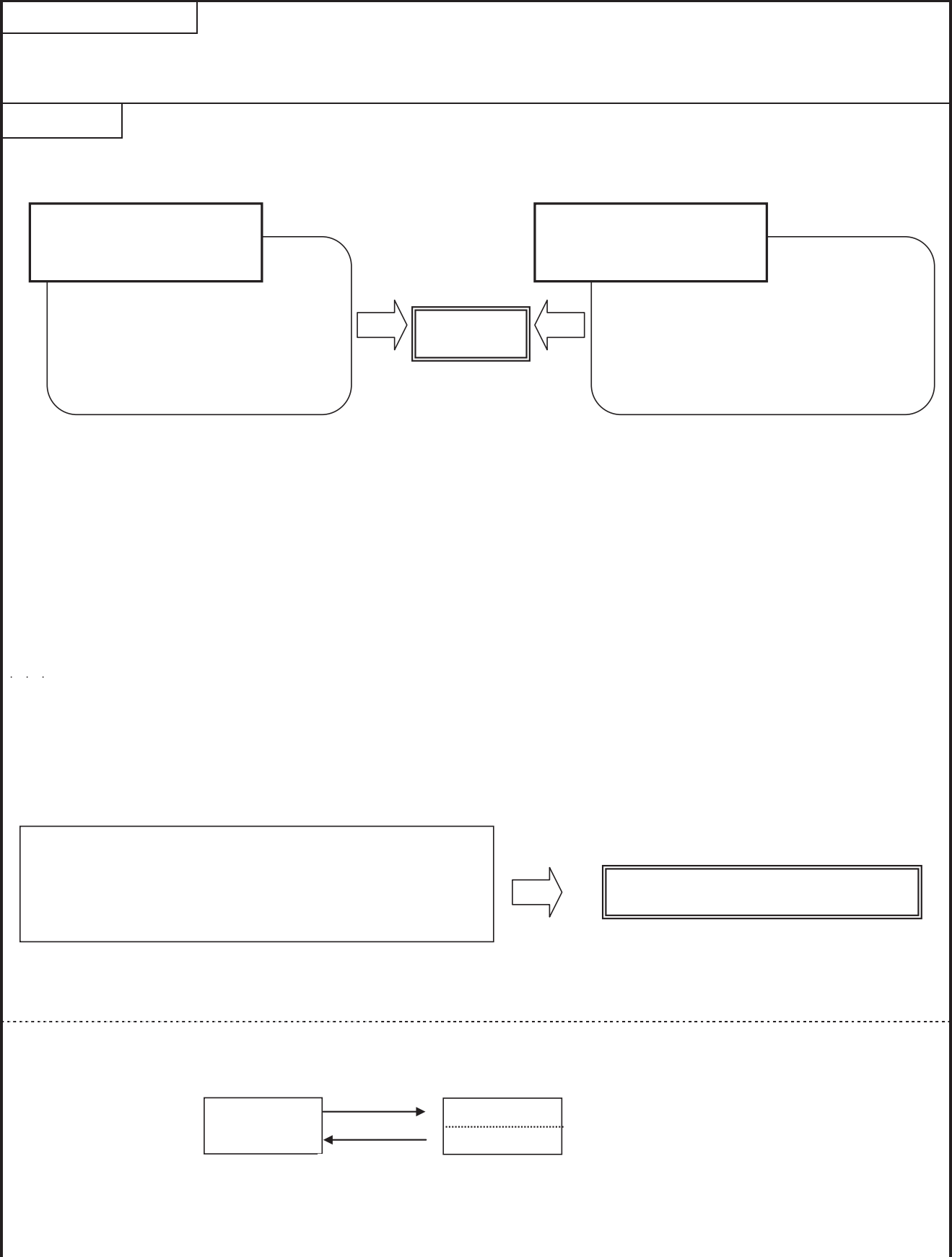


--

--

--	--	--	--	--	--

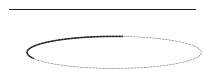
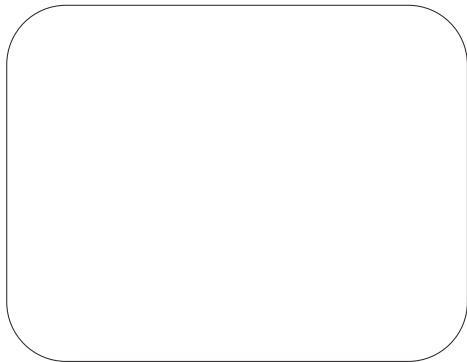


--	--	--	--	--


--	--

--	--

--	--




---


---

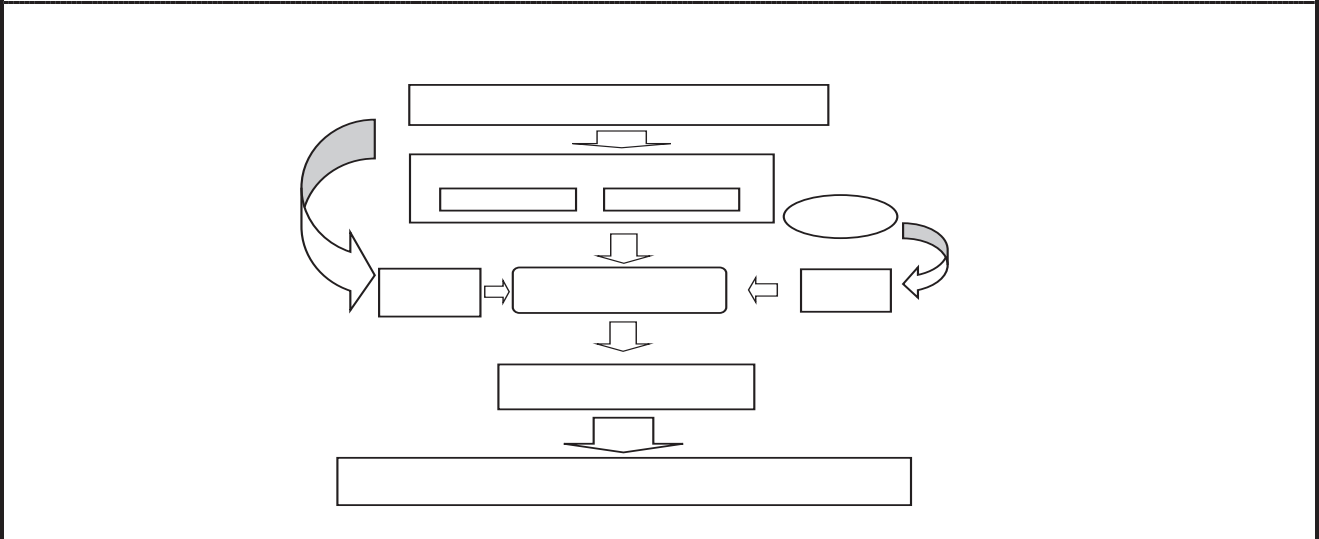

---

○	○

---



--	--	--	--	--	--

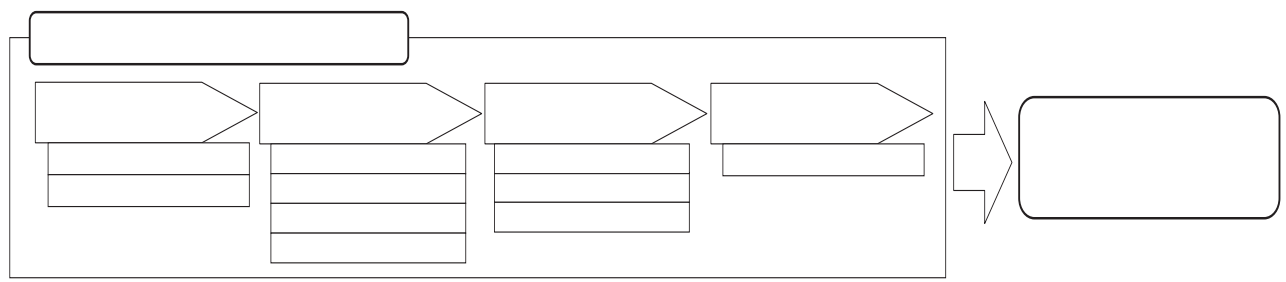
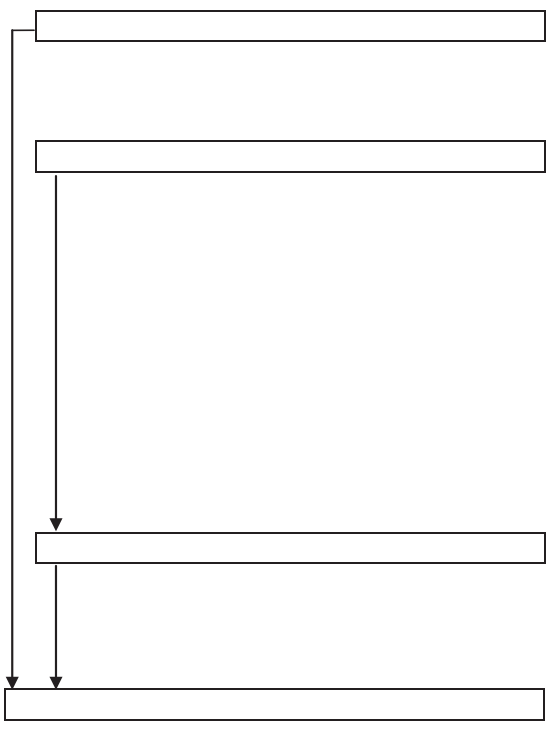

---


---


<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

---

--	--	--	--	--	--


El p À <BEfAC C

事業名	県立学校集団体験活動推進事業	部課(室)	教育庁教育振興部 高校教育課、義務教育課	事業 開始年度	H24
-----	----------------	-------	-------------------------	------------	-----

総合計画	10の事項	6	子ども・若者が夢を抱き、将来に向かってはばたけること	中項目	2	豊かな人間性や志を持ち、たくましく生きる子ども・若者を育てる
	小項目	2	豊かな心を持った子ども・若者の育成	施策	2	実体験を重視した教育の推進

1 事業のねらい・目的

<高等学校>

- 高校生活にスムーズに移行できるための指導を効果的に実施
  - ・中学校生活との違い、各校の学校文化、3年間の学校生活リズム等を理解
  - ・学年集団内の人間関係づくり、自尊感情、規範意識の育成
  - ・一人一人の多様な個性と能力の伸長、個人や社会の多様性を尊重し、互いに支え合い、高め合い、役割・責任分担しながら、共通の目的・目標に向かって連携・協力し、相乗効果を上げる協働を体験
  - ・各学校の実情に合わせた体験活動の指導目標を設定し、具体的な指導計画を作成
- 集団体験活動は、上記の目的を達成するために最も効果的な方法

<特別支援学校>

- 各教科や総合的な学習の時間、特別活動、自立活動等の授業において、児童生徒一人一人の実態に応じた具体的な指導計画を立て、児童生徒の学習内容の理解を深める。

2 事業概要

<高等学校> 自立と協働を学ぶ体験活動推進事業

【対象】 全県立中学校、中等教育学校及び高等学校の1年生

【実施場所】 学校内、県内又は近県施設  
(各校セミナーハウス、英彦山青年の家、社会教育総合センター、夜須高原青少年自然の家等)

【実施期間】 学校長の定める期間

【実施内容】 各学校の実情に合わせた体験活動の指導目標を設定し、具体的な指導計画を立てる。

例

- ・自然等体験活動
- ・学習体験活動
- ・集団行動体験活動
- ・テーマ別協議・発表会 (学校の実状に合わせてテーマを設定)
- ・災害時生活等体験活動

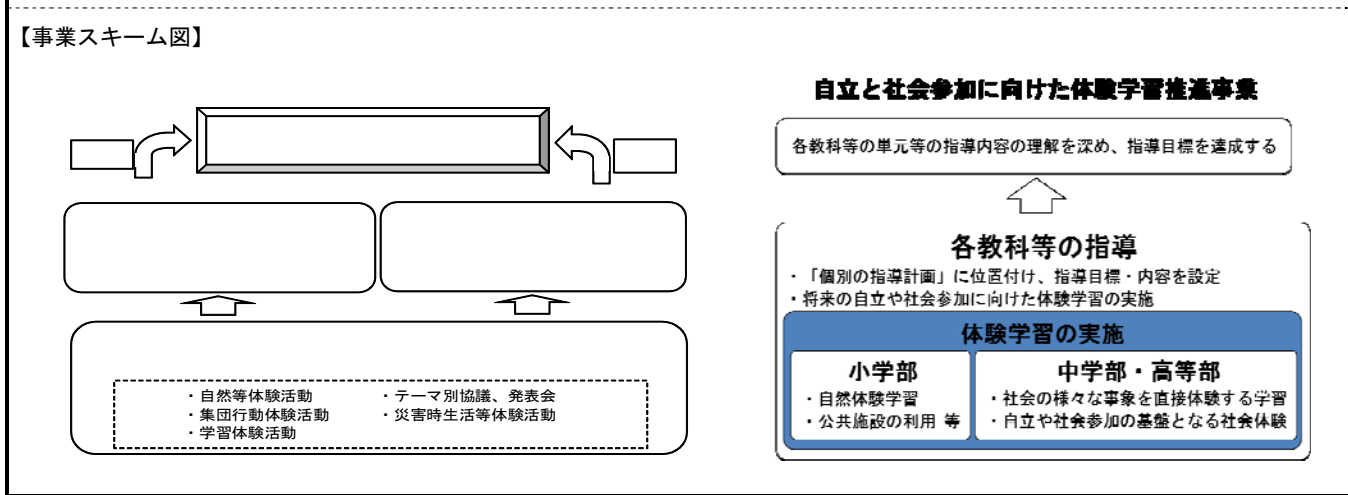
<特別支援学校> 自立と社会参加に向けた体験学習推進事業

【対象】 特別支援学校小学部・中学部及び高等部に在籍する児童生徒 (学校の状況により学年を特定)

【実施期間】 1日から2泊3日程度 (児童生徒の学年や障害の状態等に応じ、各学校で決定)

【実施内容】 各教科等の授業において、学部・教育部門ごとに直接的な体験学習を実施

例 (小学部) 自然体験学習、公共施設見学  
(中学部) 集団体験学習、文化施設見学  
(高等部) 集団宿泊体験活動、企業見学



3 事業目標等

成果指標		H25	H26	H27	H28	H29
＜高校生自助と共助を学ぶ宿泊体験事業＞ 不登校のきっかけが学校に係る事由の人数	目標	330人	290人			
	実績	518人	483人			
＜特別支援学校体験学習推進事業＞ 体験学習における指導目標の達成度	目標	90%	100%			
	実績	98.6%	99.2%			
＜自立と協働を学ぶ体験活動推進事業＞ 体験活動における指導目標の達成度(A・B回答率)	目標			85%	90%	95%
	実績			100%		
＜自立と協働を学ぶ体験活動推進事業＞ 中退率(全日制)	目標			0.95%	0.93%	0.90%
	実績			※		
＜自立と社会参加に向けた体験学習推進事業＞ 体験学習における指導目標の達成度(A回答率)	目標			80%	85%	90%
	実績			調査中		

※平成28年12月ごろ確定予定

【指標の考え方】

＜高等学校＞

(H24～H26)

・不登校となったきっかけが学校に係る事由による者の減少を指標とし、22年度の443人から150人程度の減少を目指す。  
(H27～H29)

・体験活動の指標としては、各学校が設定した指導目標の達成度及び中退率(全日制)を成果指標とする。

・実施校担当教員にアンケートを実施し、体験活動において各学校が設定した指導目標の達成について、参加生徒の感想文等をもとに4段階評価で上位2段階を回答した割合を指標とする。

※H26までの指標では、事業対象外である定時制課程の生徒が含まれていた。事業成果をより正確に確認するため、指標を変更した。

＜特別支援学校＞

・体験学習の成果として、体験学習における指導目標の達成度を成果目標とする。

・担当教員にアンケートを実施し、体験学習における指導目標の達成について4段階評価で最上位の回答をした割合を指標とする。

【目標達成状況、未達成のときはその理由】

＜高等学校＞

不登校となったきっかけが学校に係る事由の人数については、H25 518人 ⇒ H26 483人と前年度と比較して35人減少しており、本事業の効果が上がっているものと考えられる。

また、中途退学者数は、H25 487人 ⇒ H26 363人と前年度と比較して減少しており、これまで不登校から中途退学に至っていた生徒が、学校復帰の可能性を残し在籍することができていることは一定の評価に値すると考えられる。

＜特別支援学校＞

H26は、4段階評価で上位2段階を回答した担当教員割合がほぼ目標値を達成しており、事業目的を達成していると考えられる。

4 【事業の有効性】

＜高等学校＞

集団体験活動を通して、各学校の文化や学校の生活リズム等を理解することに加え、学年集団の人間関係づくり、帰属意識の高揚、学ぶ意欲への意識改革を図るとともに、コミュニケーション能力を育成し、高校生活にスムーズな移行を実現することで不登校や中途退学等の未然防止に成果が上がっている。

＜特別支援学校＞

自然体験学習、公共施設や文化施設等の見学、集団宿泊学習、企業見学等の体験学習を通して、各教科等の内容理解を深めるとともに、学ぶ意欲や自立し社会参加する資質の向上に成果が上がっている。

【事業の効率性】

＜高等学校＞

生活環境や心理状態が大きく変化しがちな1年生の時期に実施することや、従前と異なり、実施時期等の分割を可能とするなど、宿泊を義務付けないなど各学校の生徒の実態に応じた実施を可能とすることで、より事業の効率性を高めている。

＜特別支援学校＞

発達段階や学習内容を考慮して実施学年を特定することや、直接体験が不足しがちな障害種の学校では全児童生徒を実施対象とするなど、学校や児童生徒の実態に応じた体験学習を行うことで、事業の効率性を高めている。

5 事業費(千円)	H26決算	H27当初	H28当初	人件費	H26	H27	H28
歳出	45,375	64,143	72,040	時間	352	352	352
(うち一般財源)	45,375	64,143	72,040	人件費(千円)	1,447	1,447	1,447

6 見直しの内容

継続 ( 拡充 改善 (実施方法の大きな変更等を伴うもの)  一部改善 縮小 )  
 終了 ( 完了 再構築 (他の事業に組み替え) 廃止 )

【上記の理由】

＜高等学校＞

・当該事業は中途退学を含めた学校不適応の未然防止に大きな効果がある。

・体験学習やアクティブラーニングの手法を取り入れたテーマ別協議等を行うことで、コミュニケーション能力の育成に寄与し、授業改善にもつながることから、生徒の実態に応じた目標設定と指導計画の検討が必要である。

＜特別支援学校＞

各教科等の学習内容の理解を深め、指導目標を達成することにも寄与することから、個別の指導計画に基づき、障害の特性や一人一人の実態に応じた具体的な目標を設定するとともに、児童生徒の将来の自立や社会参加につながる学習内容を検討する必要がある。

【見直し内容】

(費用対効果の向上)

＜高等学校＞

バス代の高騰に伴い、各学校の生徒の実態に応じて宿泊・バス借上の有無や活動内容等を再検討することで、事業費を抑えるとともに、より効果の高い集団体験活動を実施する。

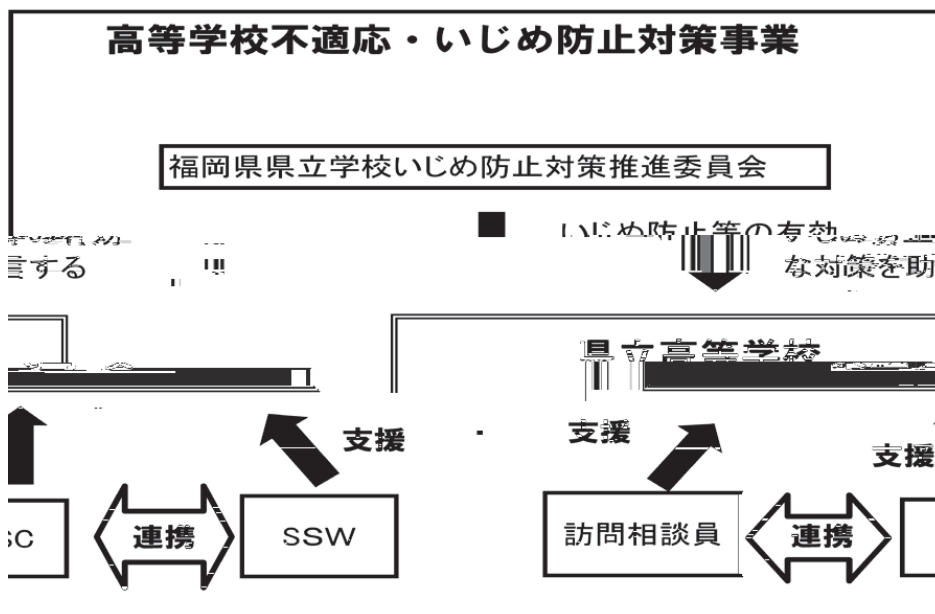
＜特別支援学校＞

障害の特性や実態に応じ、宿泊の有無や活動内容等を再検討し、事業の有効性を高めるとともに事業費を抑える。

--	--	--	--	--	--


--	--

--	--




---


---

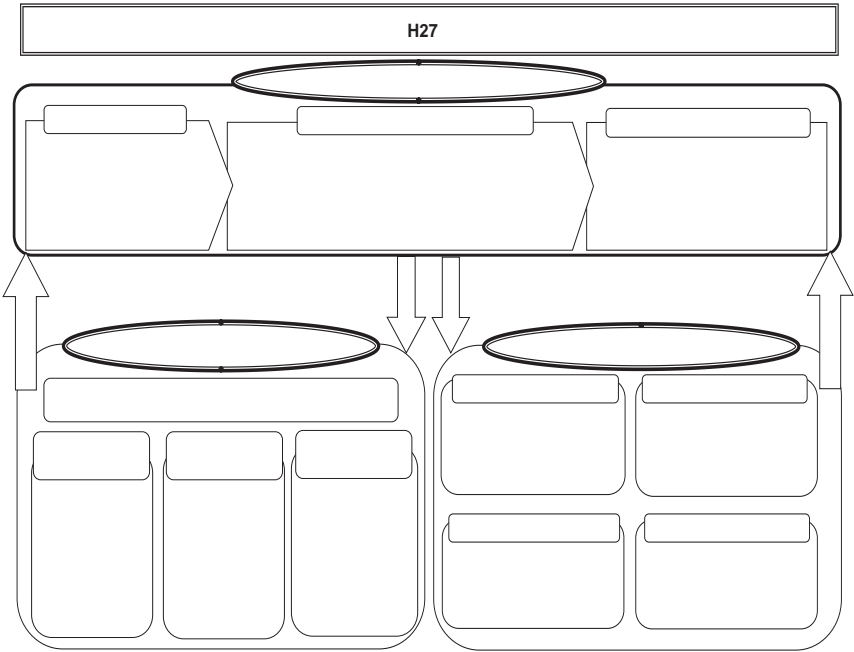

○	○

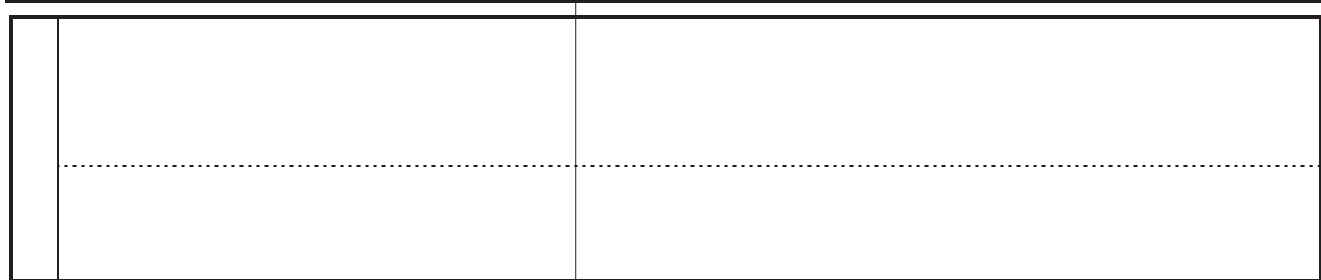
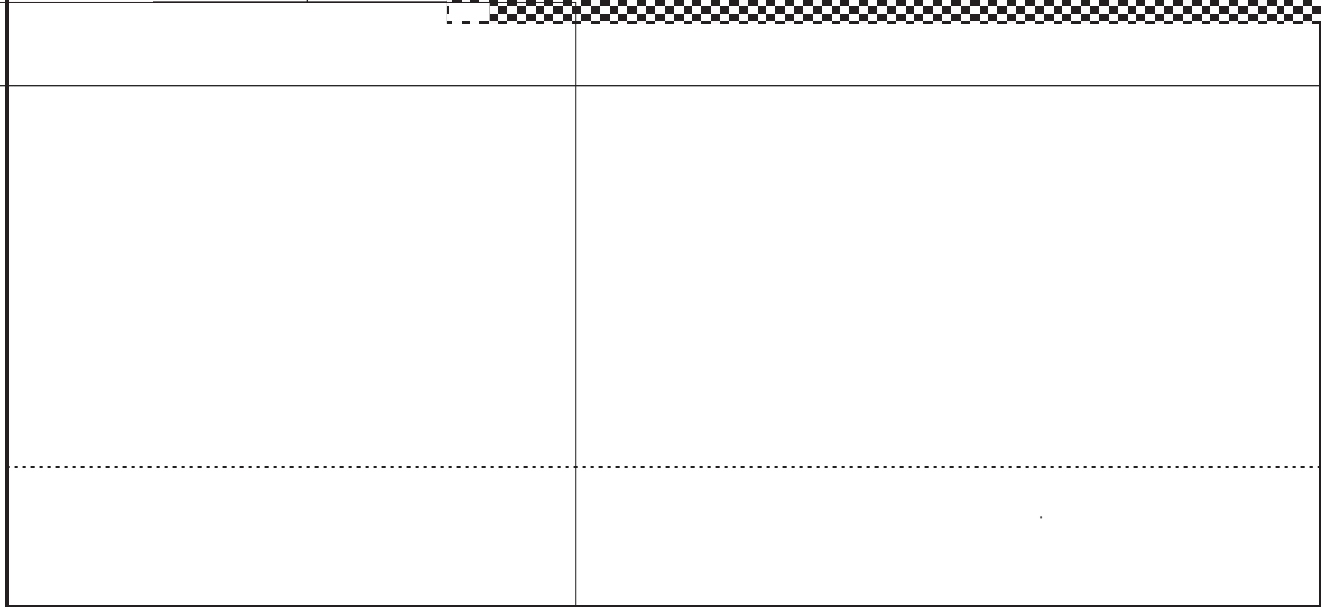
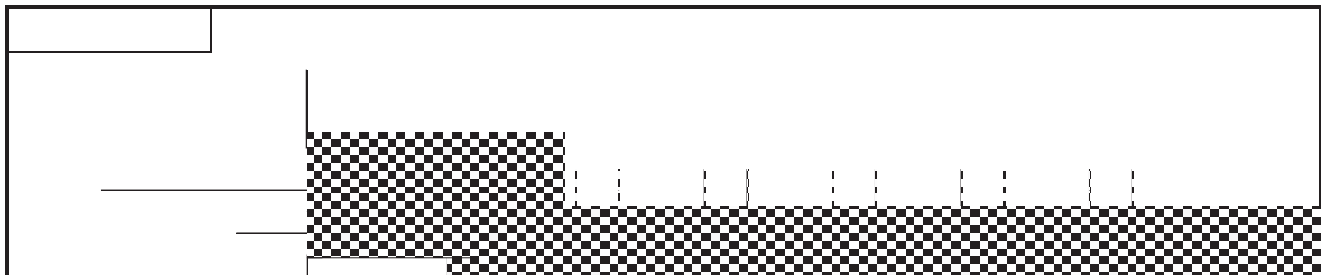
---

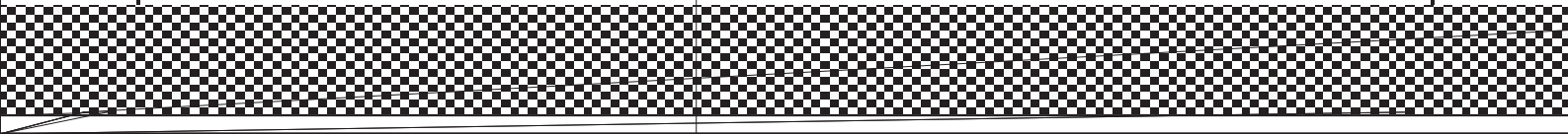
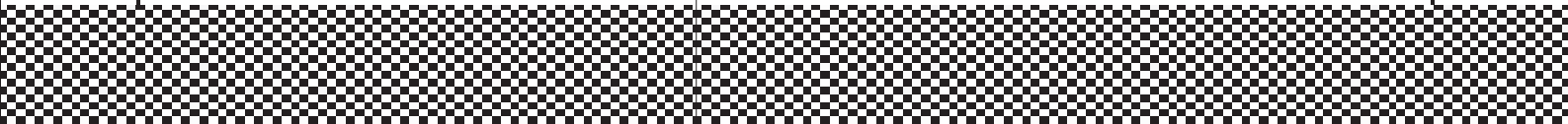
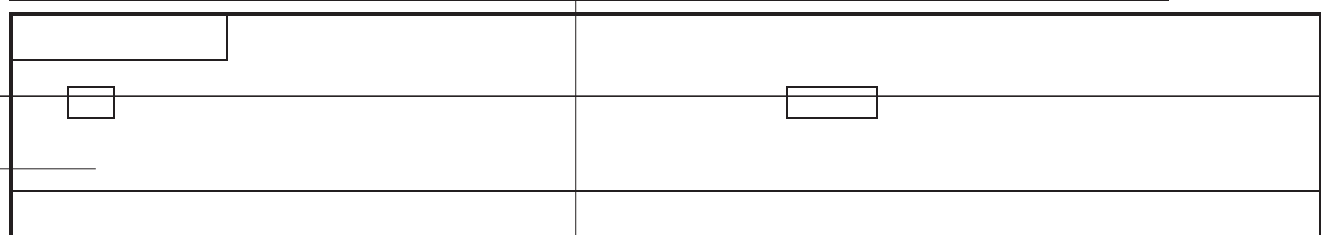


--	--	--	--	--	--



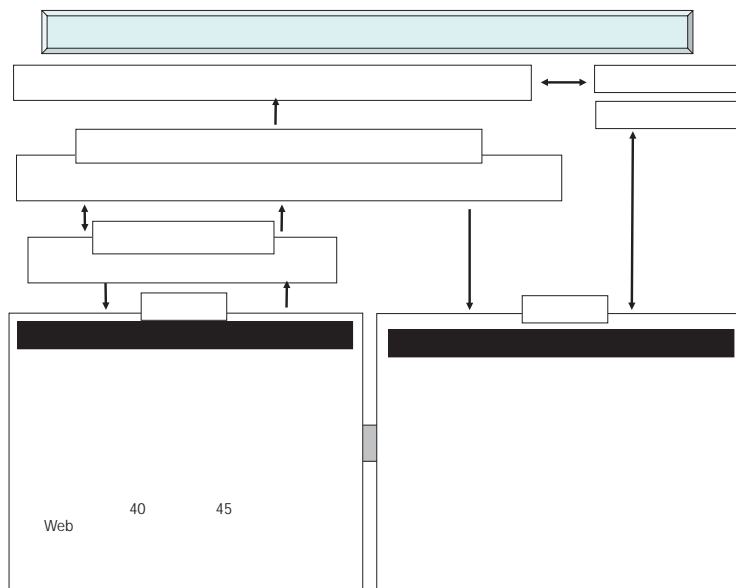


--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

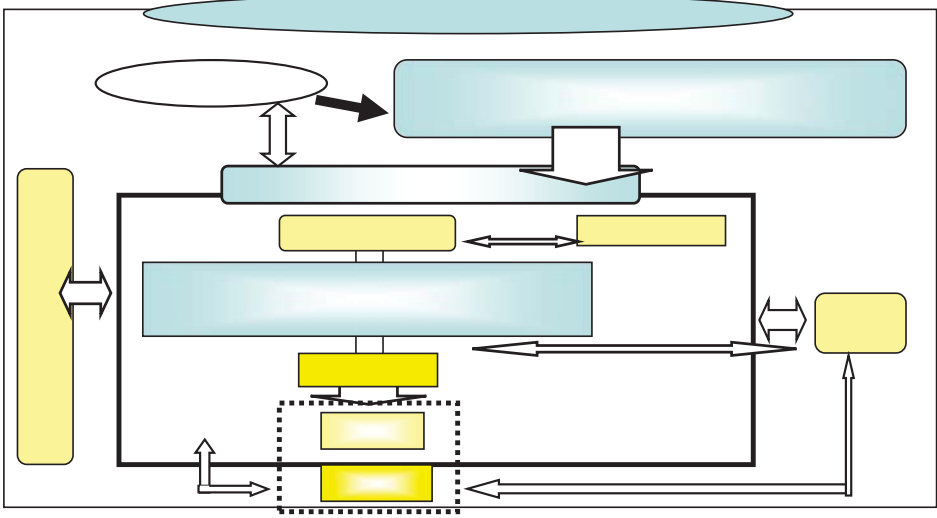




--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--



--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
--	---


<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"><div style="border: 1px solid black; width: 10%; height: 10%; margin-left: 10%; margin-top: 10%;"></div><div style="border: 1px solid black; width: 10%; height: 10%; margin-left: 45%; margin-top: 10%;"></div><hr style="border-top: 1px dashed black; margin-top: 50px;"/></div>
---	--

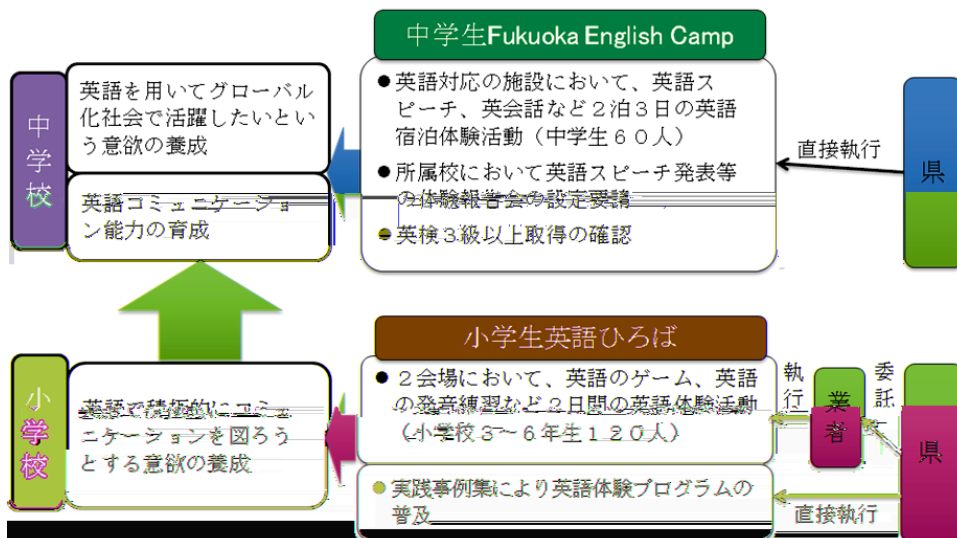
--	--	--	--	--	--



	<&+" "&\$ <&+" "&%		*\$	
	<&+" "& <&+" "&'		*\$	' ( ) *

	<&+" "&% <&+" "&'		*\$		5@H fl t

児童生徒の英語コミュニケーション能力育成事業




---


---

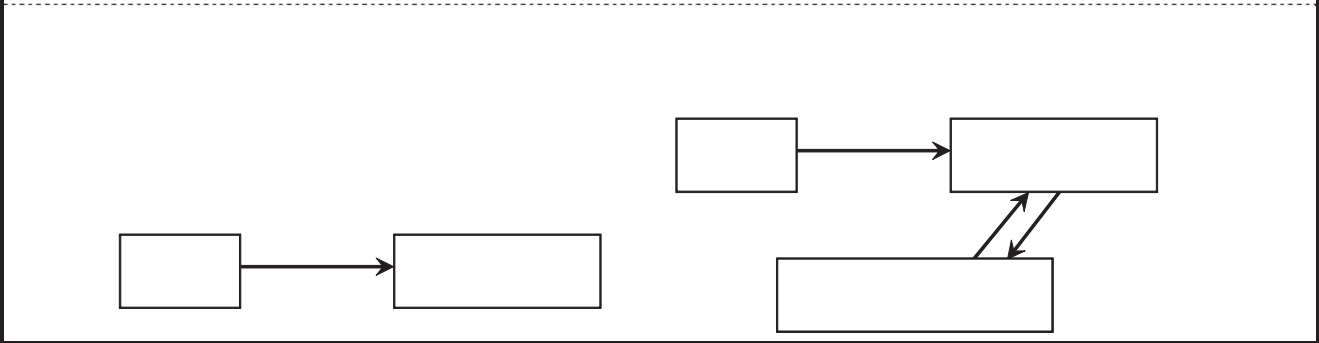


---



--	--	--	--	--	--


Blank area for notes or text.




Blank area for notes or text.

--	--

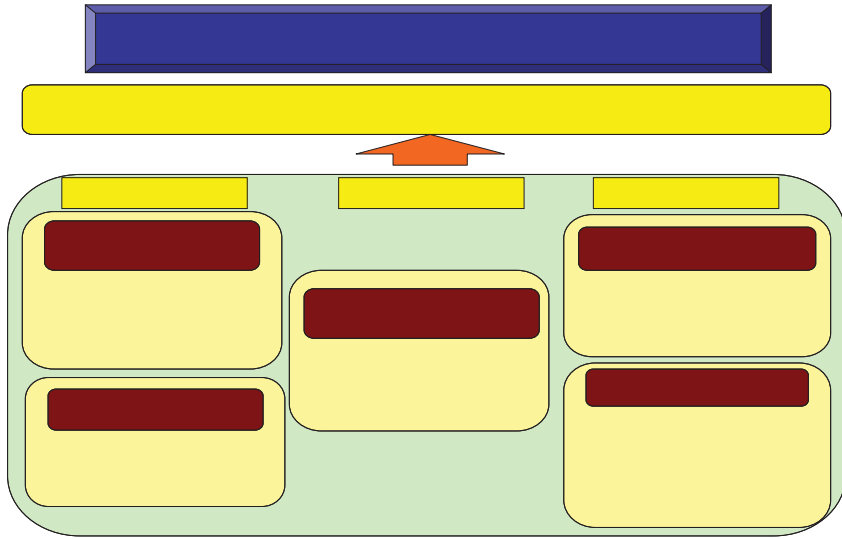
--	--	--	--	--	--	--	--

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

--	--	--	--	--	--


--

--



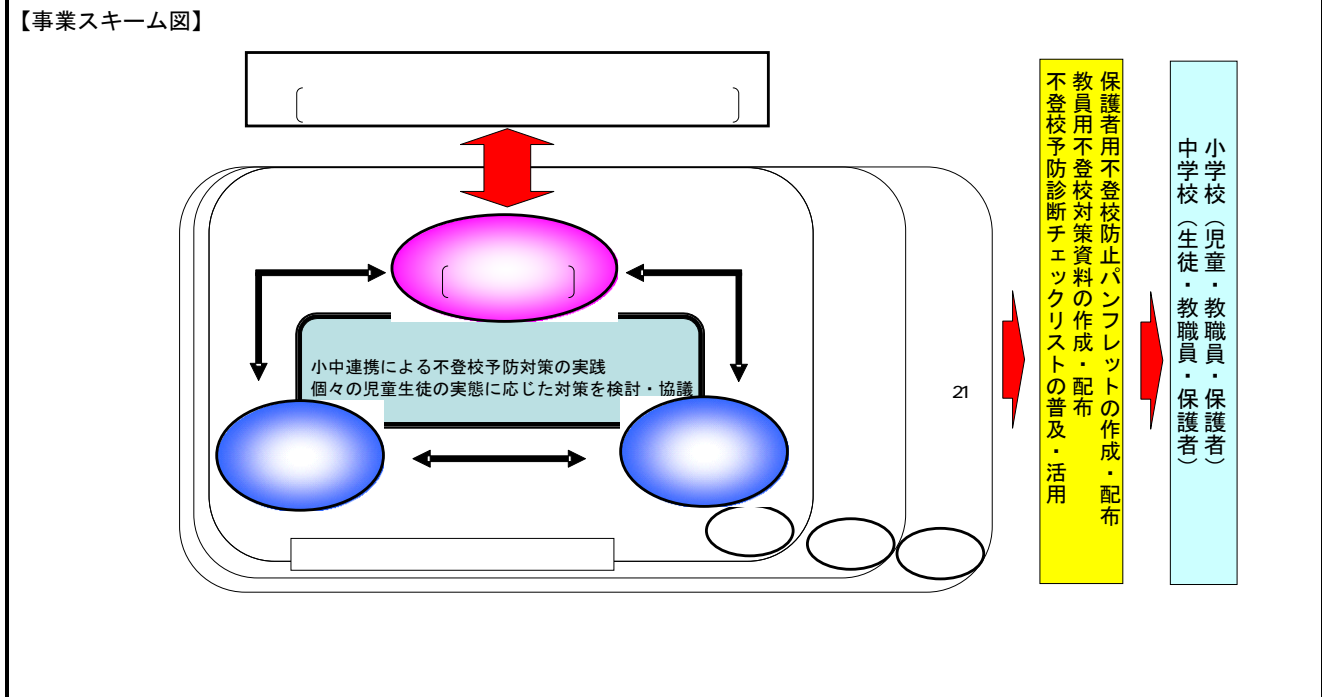

---


---

事業名	中1不登校等対策強化事業	部課(室)	教育庁教育振興部 義務教育課	事業開始年度	H26
-----	--------------	-------	-------------------	--------	-----

総合計画	10の事項	6	子ども・若者が夢を抱き、将来に向かってはばたけること	中項目	2	豊かな人間性や志を保ち、たくましく生きる子ども・若者を育てる
	小項目	2	豊かな心を持った子ども・若者の育成	施策	6	いじめ・不登校、ひきこもり問題の解決

1 事業のねらい・目的	<p>○市町村に対して県が中1不登校対策を実施することにより、県内の小中学校間の不登校出現率の差を減少させる。 ○不登校の予防・早期発見を促進する取組を行うことにより、県全体の不登校出現率を全国平均値以下にする。</p>
2 事業概要	<p><b>1 強化指定市町村における中1不登校対策の実施</b> ○中1不登校等対策アドバイザーの派遣</p> <p style="text-align: center;">6                                  1</p> <p><b>○中1不登校等対策協議会の設置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村や小中学校間の情報・課題を共有して、実態に応じた小中連携による不登校予防対策を検討・協議する。</li> <li>委員構成：学識経験者、不登校等対策アドバイザー、市町村教委担当者、小中学校教職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー</li> <li>開催回数：年3回程度（各学期に1回）</li> </ul> <p><b>2 不登校予防診断チェックリストの開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員による不登校に対する予防・早期発見を促進するため、児童生徒の学校への適応感等の不登校傾向を測る予防診断チェックリストを開発する。</li> <li>不登校予防診断チェックリスト作成会議による検証に基づき、強化指定市町村で研究を実施し、3年後、県内全ての公立小中学校において共通実践を行う。</li> </ul> <p><b>3 保護者用不登校防止パンフレット及び教員用不登校対策指導資料の作成・配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭における不登校の予防や不登校傾向の児童生徒への支援の在り方等に関する保護者向け広報パンフレットの作成・配布（配布先：県内公立小中学校の児童生徒の保護者約218,000人）</li> <li>不登校予防対策に関する教員用指導資料の作成・配布（配布先：県内公立小中学校教員約15,000人）</li> </ul>



3 事業目標等

成果指標		H25	H26	H27	H28
強化指定市町村における小中学校間の不登校出現率の差の減少（H23県平均29.9人以下）	目標	—	7市町村	14市町村	21市町村
	実績	0市町村	3市町村	事業実施中	
1,000人当たりの不登校児童生徒数の減少（H23全国平均11.3人以下）	目標	—	11.7人以下	11.5人以下	11.2人以下
	実績	12.4人	12.6人	事業実施中	

【指標の考え方】

福岡県総合計画における施策目標設定時の県の実績値（平成23年度）を基準として設定

【目標達成状況、未達成のときはその理由】

中1不登校等対策協議会等の体制整備に時間を要し、取組開始が遅れたことが一因となり、強化指定した4市町において小学校の不登校は減少したものの、不登校出現率の減少には至らなかった。

なお、強化指定した7市町中3市町では不登校出現率の差が減少した。

4  
有効性・  
効率性

【事業の有効性】

平成26年度強化指定市町村7市町のうち、3町で不登校出現率が減少した。不登校出現率が減少しなかった他の4市町においても小学校の不登校児童数が減少した。

本年度は児童生徒の学校への適応感等の不登校傾向を測る予防診断チェックリストを完成させ、今後県内全小中学校で普及活用し、不登校の未然防止、早期発見及び解消に役立てる。

【事業の効率性】

強化指定市町村においては、不登校対策アドバイザーの指導・助言により効率的で適切な不登校対策が実施された。また、保護者用不登校防止パンフレット及び教員用不登校対策指導資料の配布により、不登校についての認識や対応について家庭と学校の共通理解が進み、これまで以上に両者が協力した不登校の防止・解消の実践が進んでいる。

5 事業費（千円）	H26決算	H27当初	H28当初	人件費	H26	H27	H28
歳出	9,626	16,546	14,148	時間	432	432	432
（うち一般財源）	7,195	11,825	10,153	人件費（千円）	1,775	1,775	1,775

6 見直しの内容

継続（ 拡充      改善（実施方法の大きな変更等を伴うもの）       一部改善      縮小 ）  
 終了（ 完了      再構築（他の事業に組み替え）      廃止 ）

【上記の理由】

強化指定市町村においては組織的な不登校対策が実現できており、継続的に取り組むことによって更なる不登校出現率の減少が期待できる。

また、平成28年度は教師及び保護者用の不登校予防診断チェックリストが完成予定である。これにより3者（児童生徒・教師・保護者）の視点から不登校の予防、早期発見の取組が促進され、不登校児童生徒数の出現率の減少が期待できる。

【見直し内容】

（費用対効果の向上）

強化指定市町村におけるこれまでの2年間の事業実施状況を踏まえ、運営経費の見直しを行う。

（部局間の調整・連携）

教育事務所との連携を強化し、各地区中1不登校等対策協議会と一体となって統一的な取組の更なる充実を図る。

（その他）

特になし

(様式1号)

H27年度 事務事業評価書 (既存事業分)

事業名	保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業		部課(室)	教育庁教育振興部 義務教育課、高校教育課	事業 開始年度	H24
総合計画	10の事項	6	子ども・若者が夢を抱き、将来に向かってはばたけること	中項目	2	豊かな人間性や志を持ち、たくましく生きる子ども・若者を育てる
	小項目	3	少年の非行防止と健全育成	施策	1	少年の非行防止と健全育成

**1 事業のねらい・目的**

- ・保護者が児童生徒と共に規範意識について学ぶことで、保護者の規範に対する意識や養育に関する責任感を高め、さらに学校と家庭との連携を図り、児童生徒の規範意識向上に取り組む。
- ・公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校において、発達段階や校種に応じた学習会を実施することで、児童生徒の規範意識向上のための一貫した取組を行う。
- ・以上の取り組みにより、社会のルールを守る理解を深め、非行行為に走らない判断力や行動力を育成し、非行防止の基盤となる児童生徒の規範意識の向上を図る。

**2 事業概要**

**○規範意識向上学習会の実施**

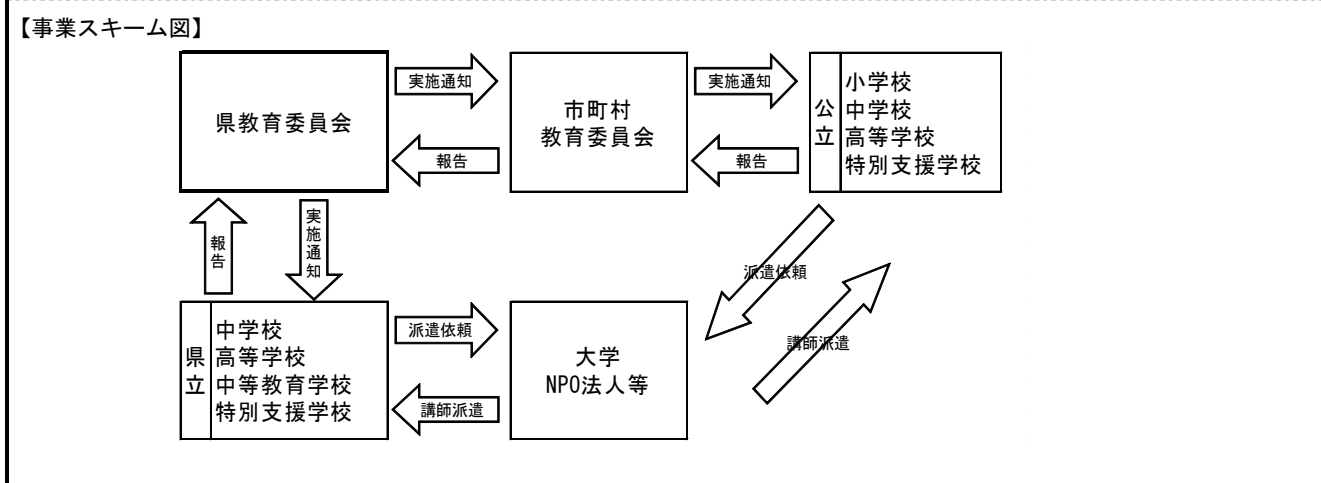
**【対象校種】**  
公立小学校(3年生以上)、県立・公立中学校、県立・公立高等学校(中等教育含む)、  
県立・公立特別支援学校

**【学習テーマ】**

学習テーマ	具体的内容	小学校3・4年	小学校5年～高等学校	特別支援学校	保護者
望ましい行動の促進	接遇教育 法教育、 交通安全教育、 立腰教育等	年に 2テーマ実施 (2回/年)	年に 3テーマ実施 (3回/年)	児童生徒の 実態に応じた 学習テーマを 障害種ごとに 選択し実施 (1回/年)	各区分において、 実施テーマのうち 1テーマ(1回/年) は、保護者も参加
ネットいじめ等防止	ネットの危険性 ネットによる誹謗中傷防止、 ネットによるいじめ防止等				
非行防止	初発型非行防止、 薬物乱用防止、 性の逸脱行動防止、 飲酒運転防止等				

※初発型非行：万引き・占有離脱物横領・乗物盗

**○学習会への講師の派遣**  
上記の学習会のうち各学校で年1回、専門的な人材を外部講師として学校に招き、学習会を実施する。  
なお、外部講師については、大学、NPO法人等と連携し各校が決定する。



3 事業目標等

成果指標		基準 (H22)	H24	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
非行者率 (総合計画)	目標		→	→	9.8人以下			
	実績	12.6人	9.8人	8.4人	7.3人			
刑法犯少年検挙補導人員	目標		→	→	4,700人以下			
	実績	6,203人	4,804人	4,040人	3,799人			
児童生徒と保護者が共に学ぶ学習会を実施している学校の割合	目標					100%	100%	100%
	実績					調査中		

【指標の考え方】

・非行防止の基盤となる児童・生徒の規範意識の向上を図る事業であることから、非行者率、刑法犯少年検挙補導人員を指標とし、目標値は平成26年度までに平成22年度比約3割減を目指して事業を実施してきたが、非行者率・刑法犯少年検挙補導人員は学校に在籍していない少年も含んでいるため、事業の成果が適切に反映されていない。また、規範意識は継続的な取組を確実に重ねていくことにより徐々に醸成できるものであるため、平成27年度からは、児童生徒と保護者が共に学ぶ学習会を実施している学校の割合を指標とする。

【目標達成状況、未達成のときはその理由】

・平成26年度までに、非行者率(10歳から19歳までの少年人口1,000人当たり刑法犯少年が占める割合)及び刑法犯少年検挙補導人員は、目標値に達成しており、本事業は成果を上げている。

4  
有効性・  
効率性

【事業の有効性】

- ・学習会実施前後の実態調査結果から児童生徒の具体的に行動する意識の高まりがみられた。
- ・学習会実施後のアンケート結果から学習会に参加した保護者の意識の高まりがみられた。

【事業の効率性】

- ・本年度も保護者が参加する学習会の実施回数を各校1回とした。

5 事業費(千円)	H26決算	H27当初	H28当初	人件費	H26	H27	H28
歳出	11,227	11,391	11,345	時間	672	672	672
(うち一般財源)	11,227	11,391	11,345	人件費(千円)	2,761	2,761	2,761

6 見直しの内容

継続 ( 拡充 改善 (実施方法の大きな変更等を伴うもの)  一部改善 縮小 )  
 終了 ( 完了 再構築 (他の事業に組み替え) 廃止 )

【上記の理由】

平成24年度から、児童生徒の発達段階や校種に応じてテーマ学習を行い、児童生徒と保護者が共に学び、学校と家庭で連携して児童生徒の規範意識の育成に取り組んできた。

本事業により一定の成果を得たものの、ネットに関するトラブル等の発生をはじめ、生徒指導上の諸問題が依然として後を絶たない状況であり、規範意識の一層の向上を図る必要がある。

【見直し内容】

(費用対効果の向上)

- ・これまでのネットいじめ等の防止や非行防止、望ましい行動を促進するための学習テーマを実施しているが、社会の情勢等に応じてテーマの再検討を行い、児童生徒へのより効果的な規範意識向上を図る内容にしていく。

(部局間の調整・連携)

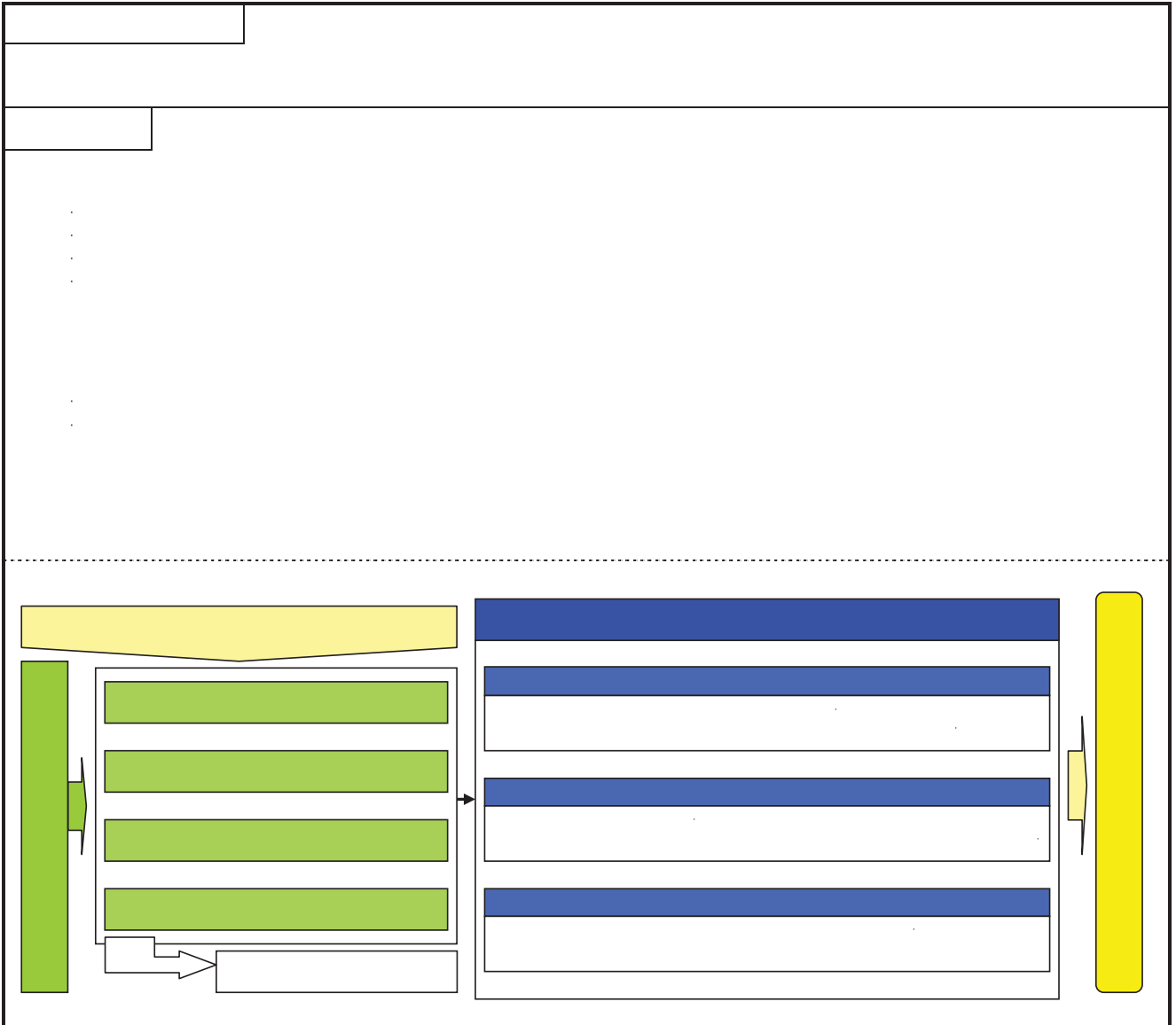
特になし

(その他)

特になし



--	--	--	--	--	--

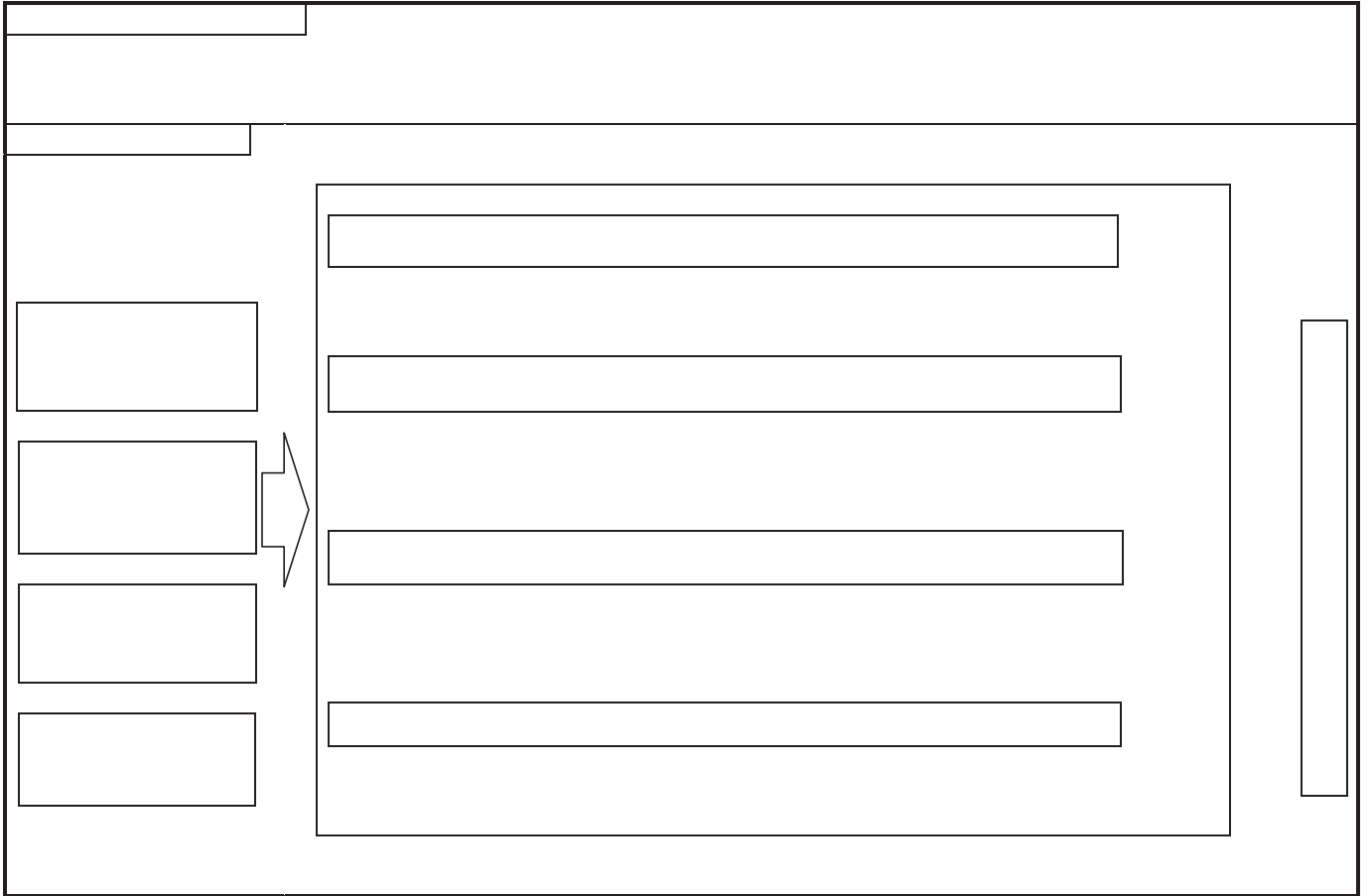




Blank rectangular area at the top of the page.

Large rectangular area with a vertical line on the left and a horizontal dashed line near the bottom.


Large rectangular area with a horizontal line near the top, two ovals in the top-left corner, and a horizontal dashed line near the bottom.

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

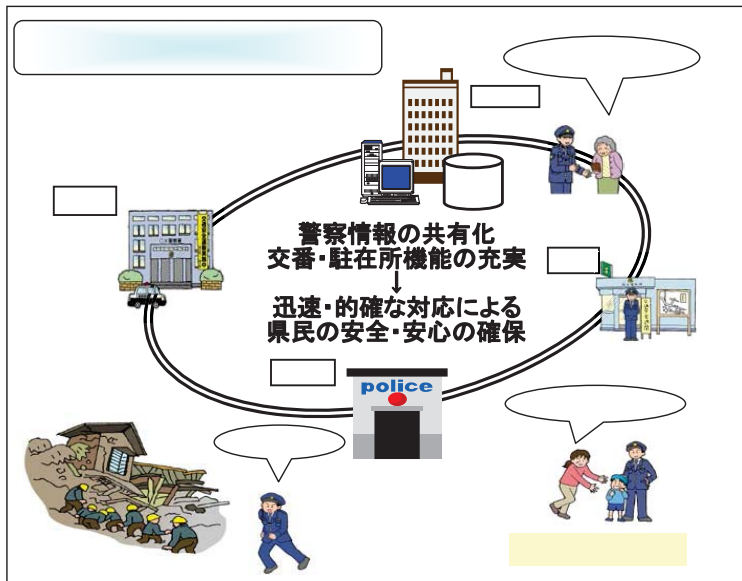



○	○

--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--



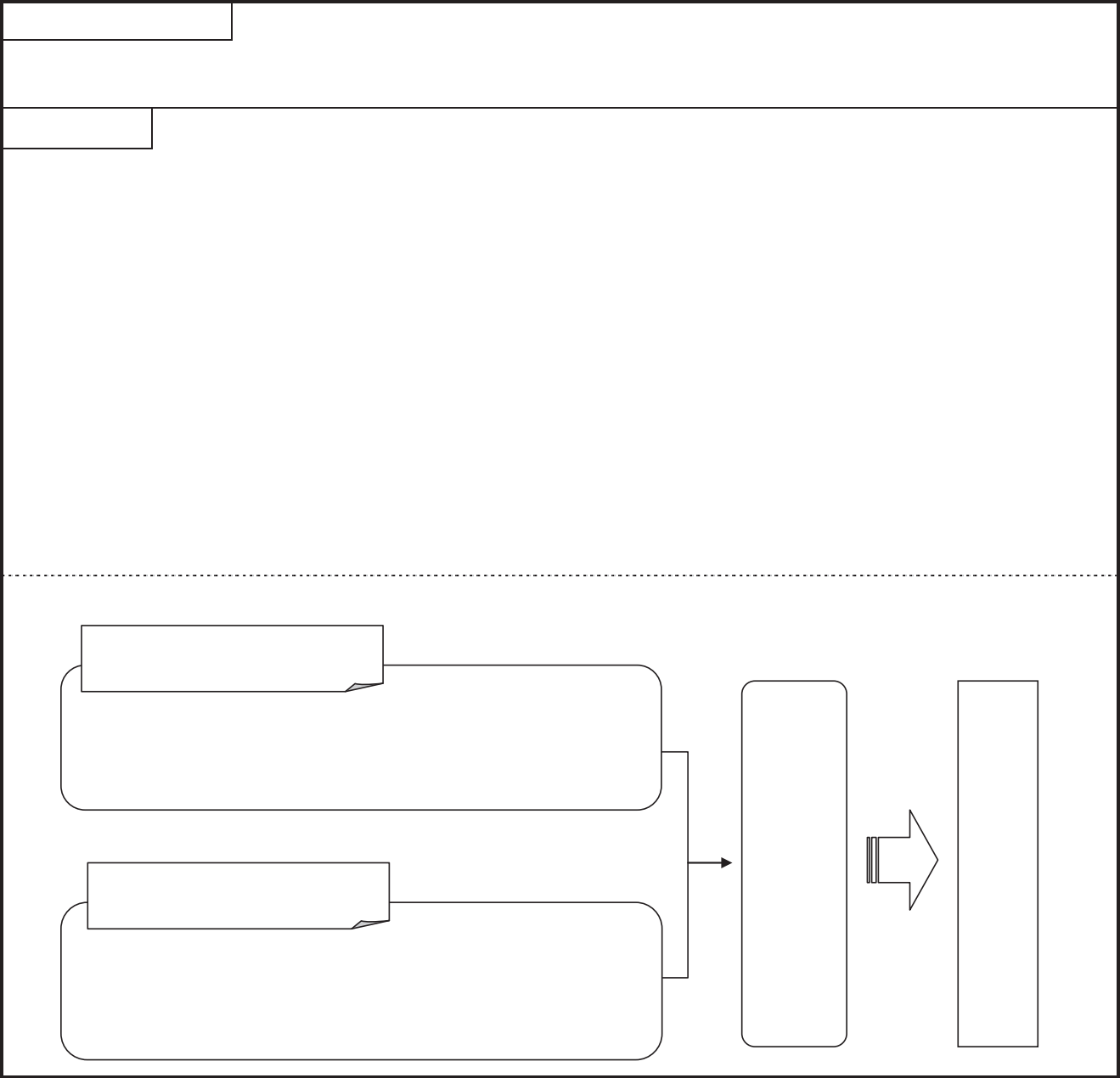
--	--	--	--	--	--

			→				
--	--	--	---	--	--	--	--





--	--	--	--	--	--

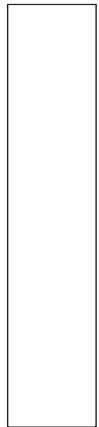
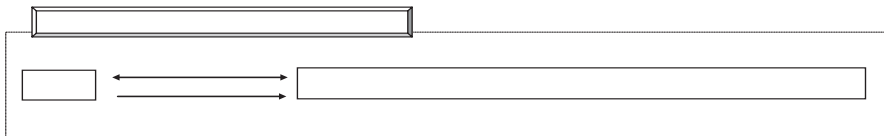
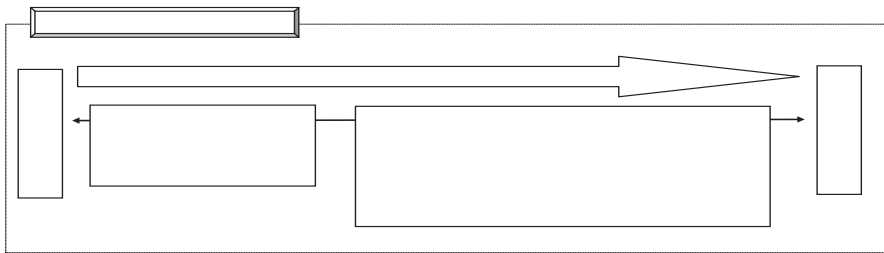
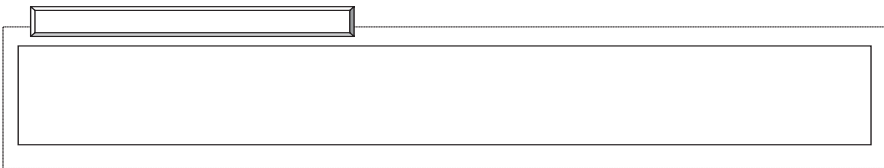
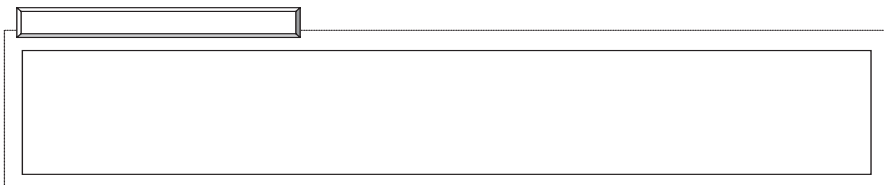

Blank rectangular area with a dashed top border.

Large rectangular area with a vertical line on the left and a dashed horizontal line near the bottom.

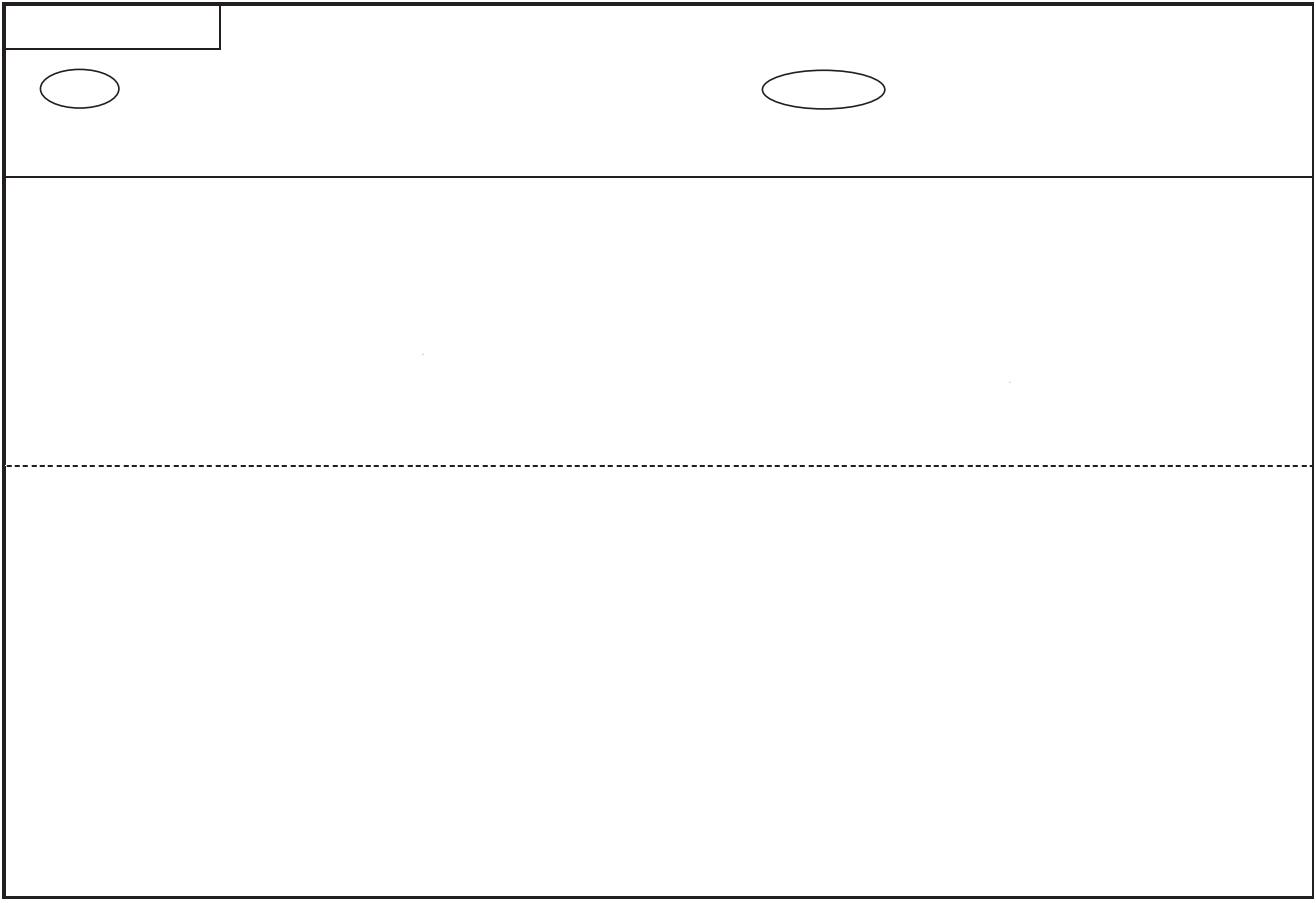

Large rectangular area with a small tab on the top left containing two ovals, and a dashed horizontal line near the bottom.



--	--	--	--	--	--



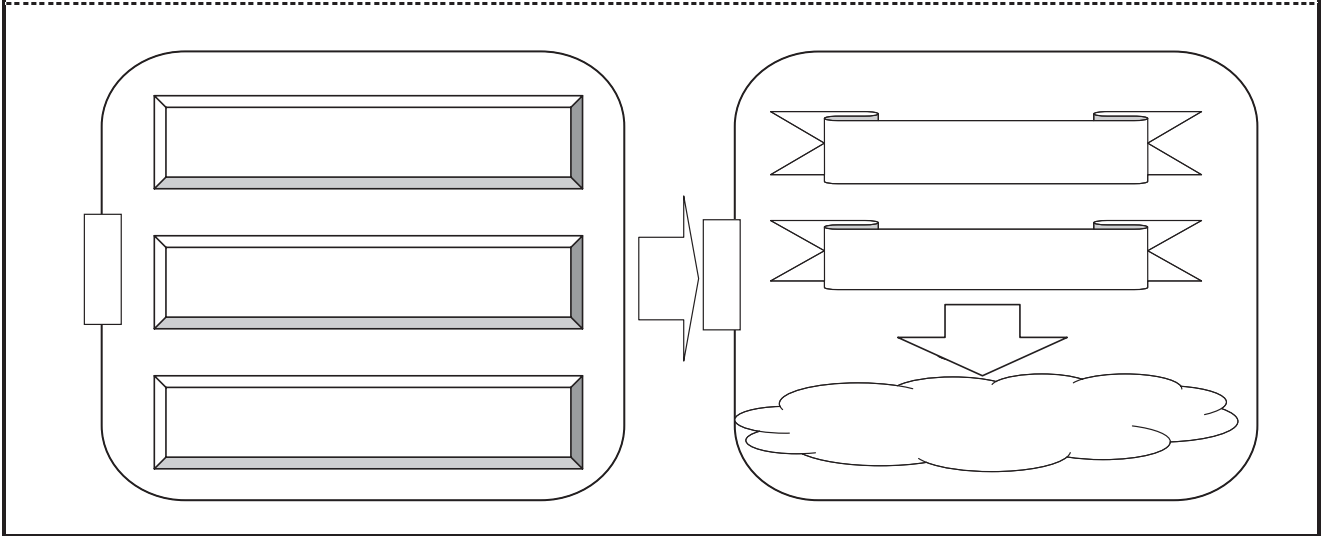




--	--	--	--	--	--


--	--

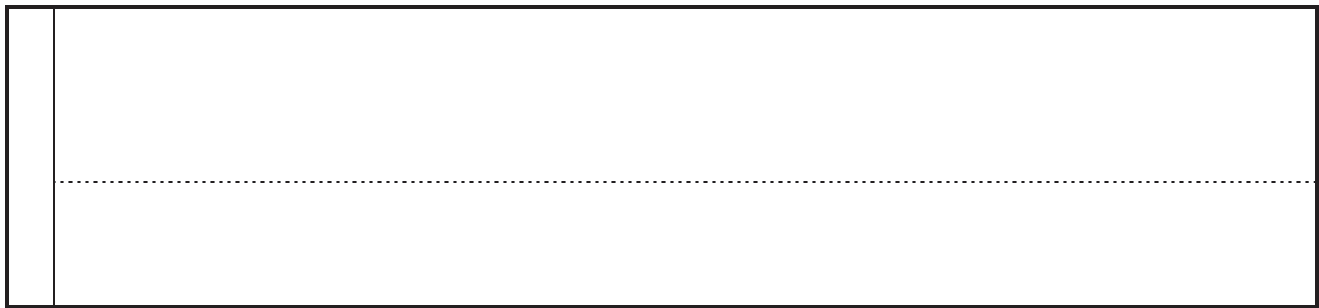
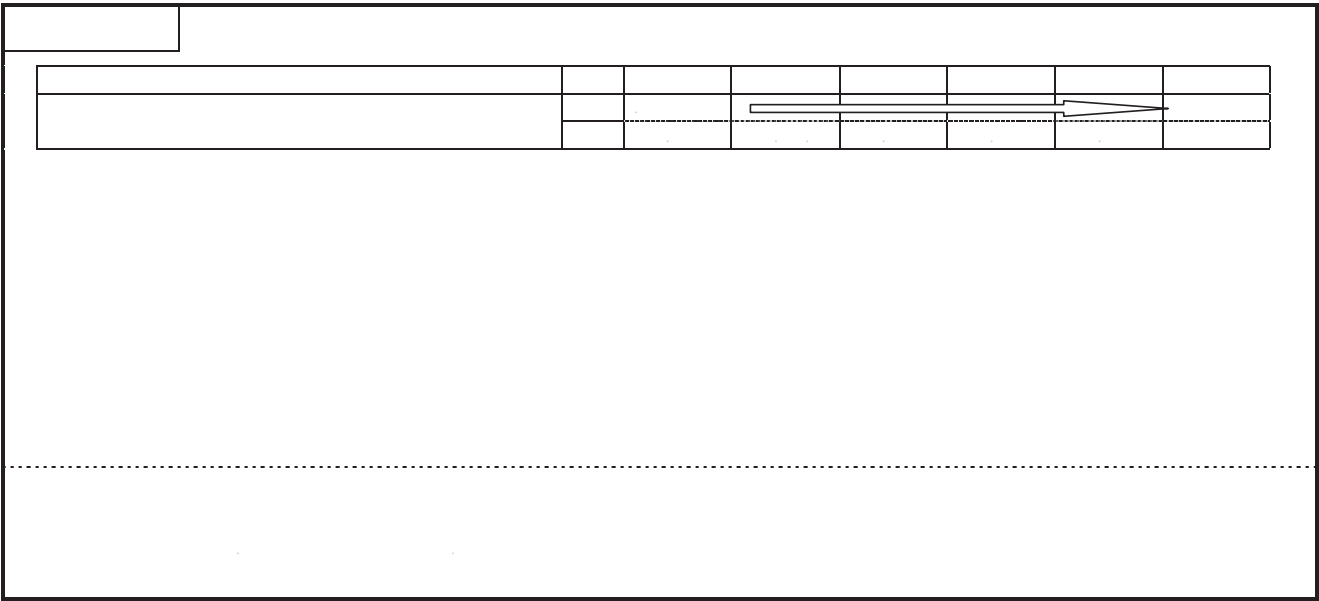
--	--



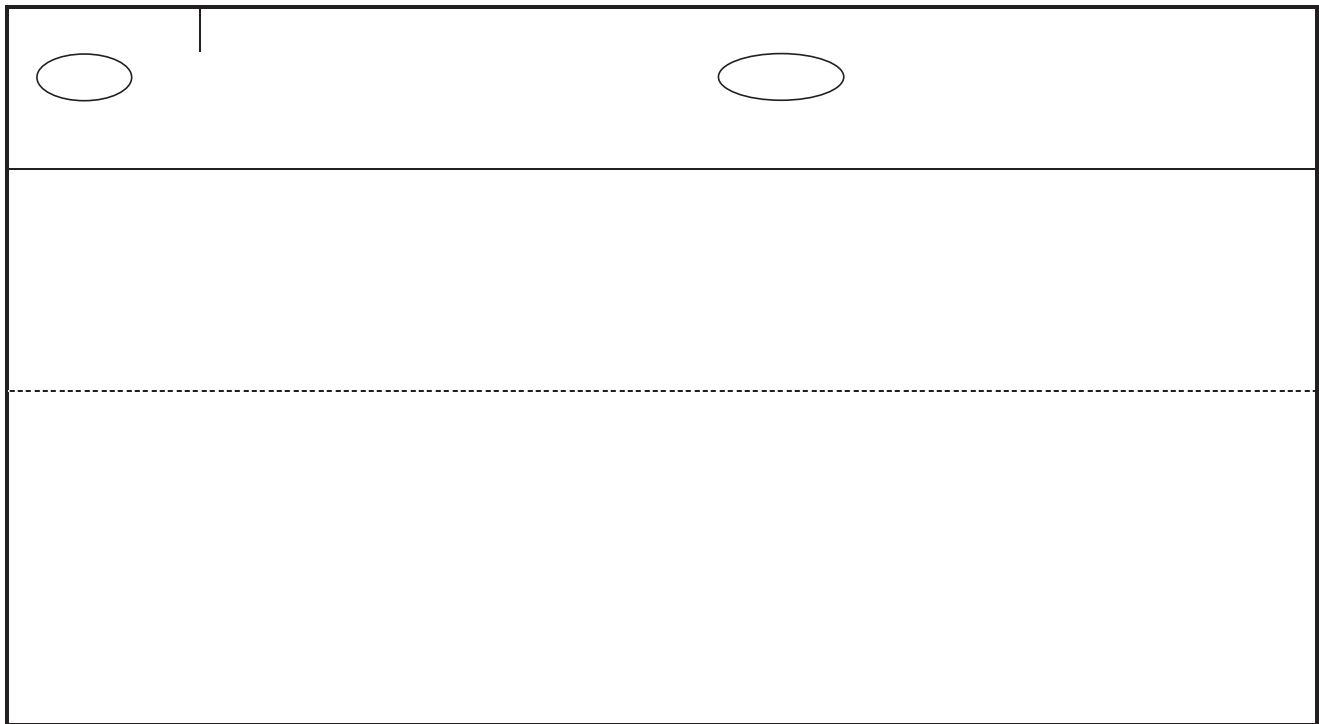
--	--





1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	3	4	5	6	7	8

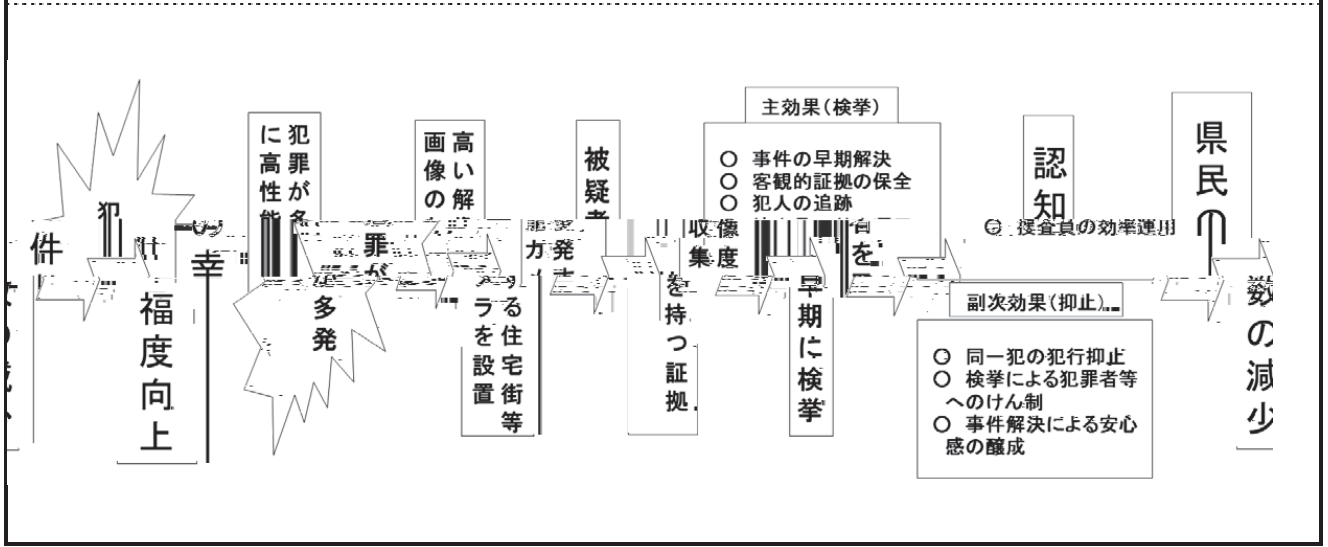




--	--	--	--	--	--	--	--


--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

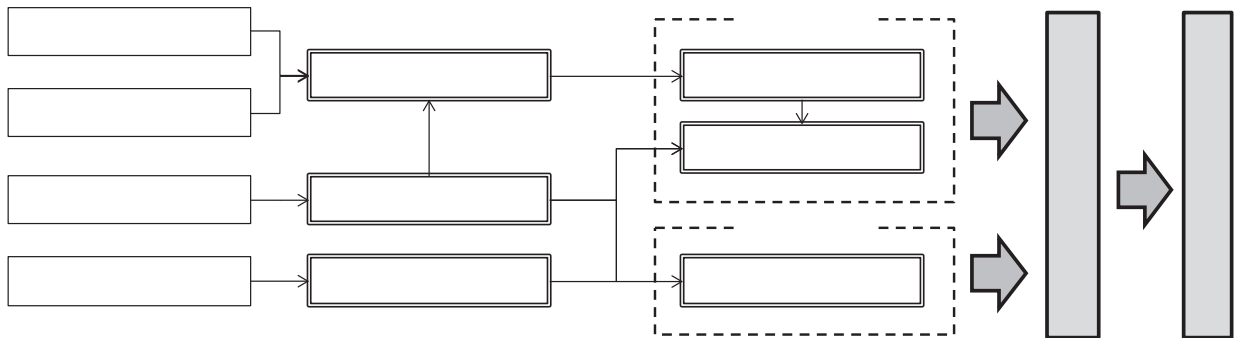




--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--




--	--	--	--	--	--

--	--

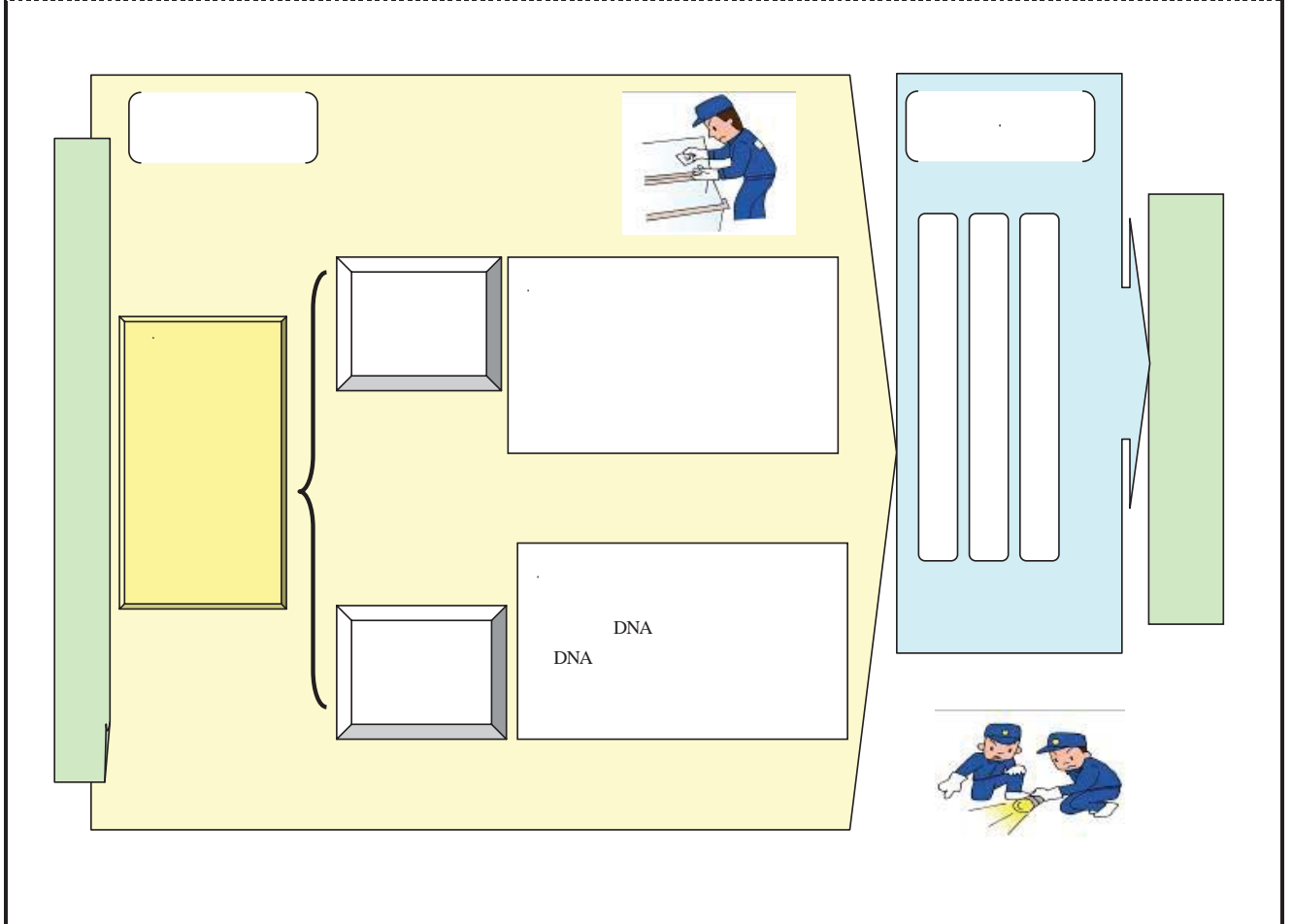
--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--


--	--

--	--



--


---

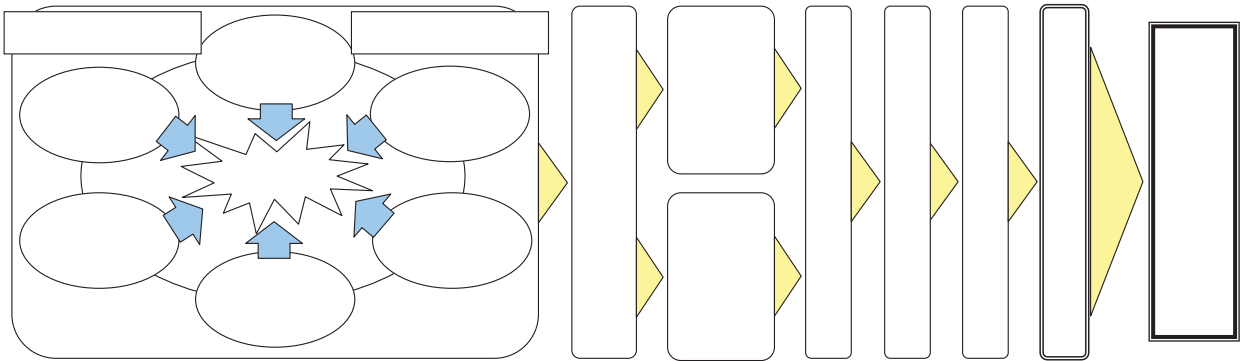
---




--	--	--	--	--	--


--	--

--	--



--	--

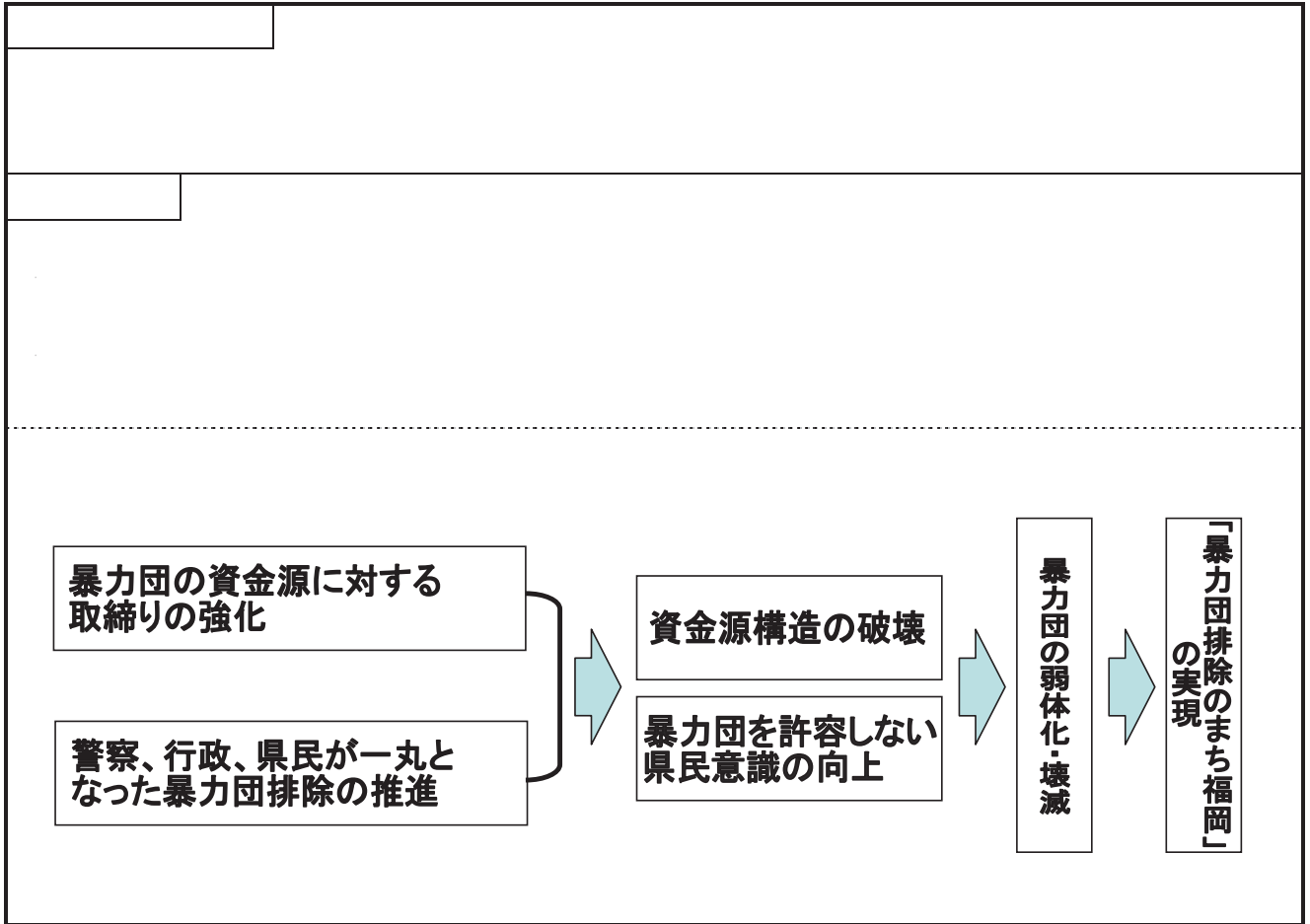
--	--

--	--	--	--	--	--	--	--



--	--



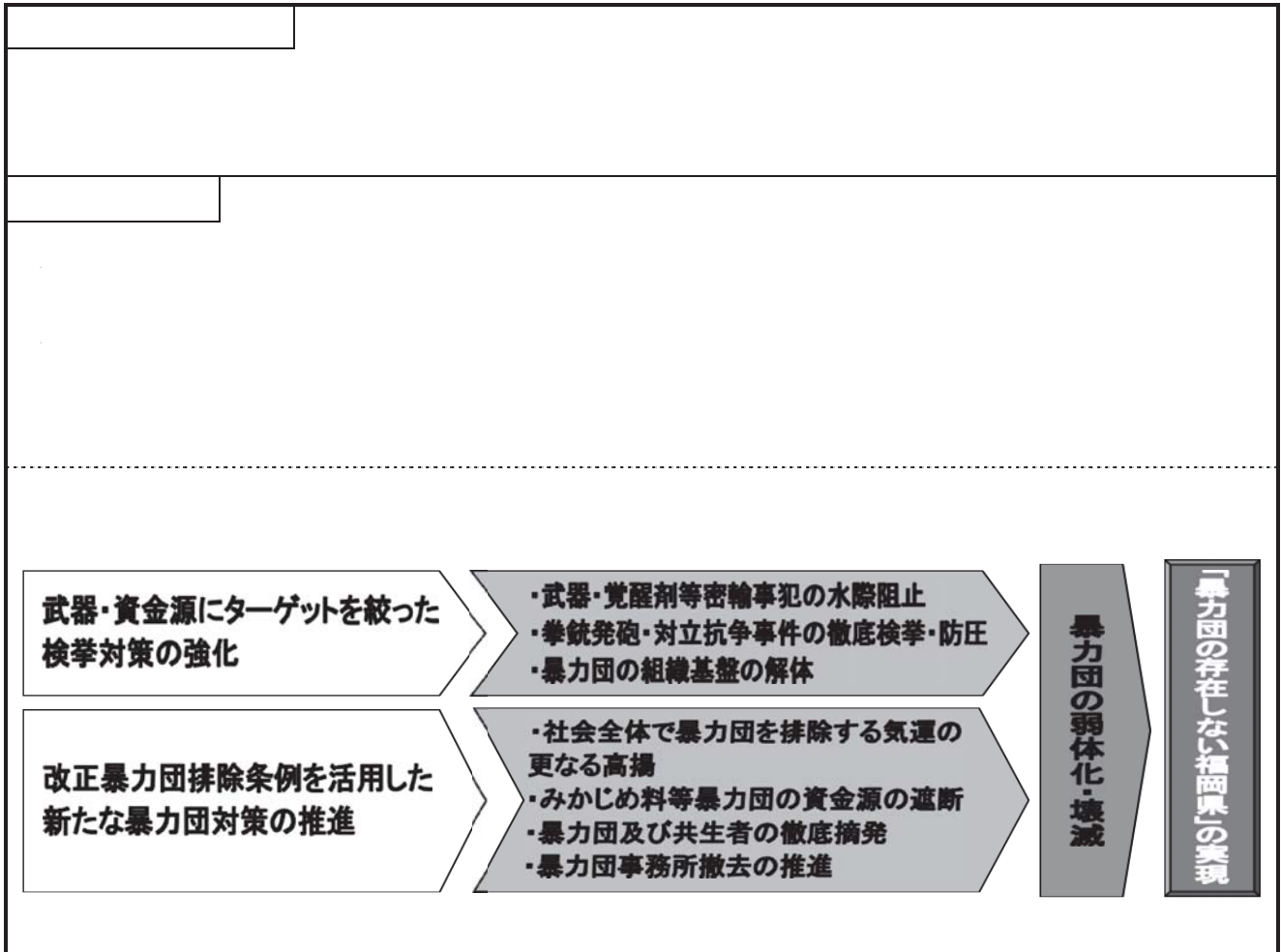
--	--	--	--	--	--



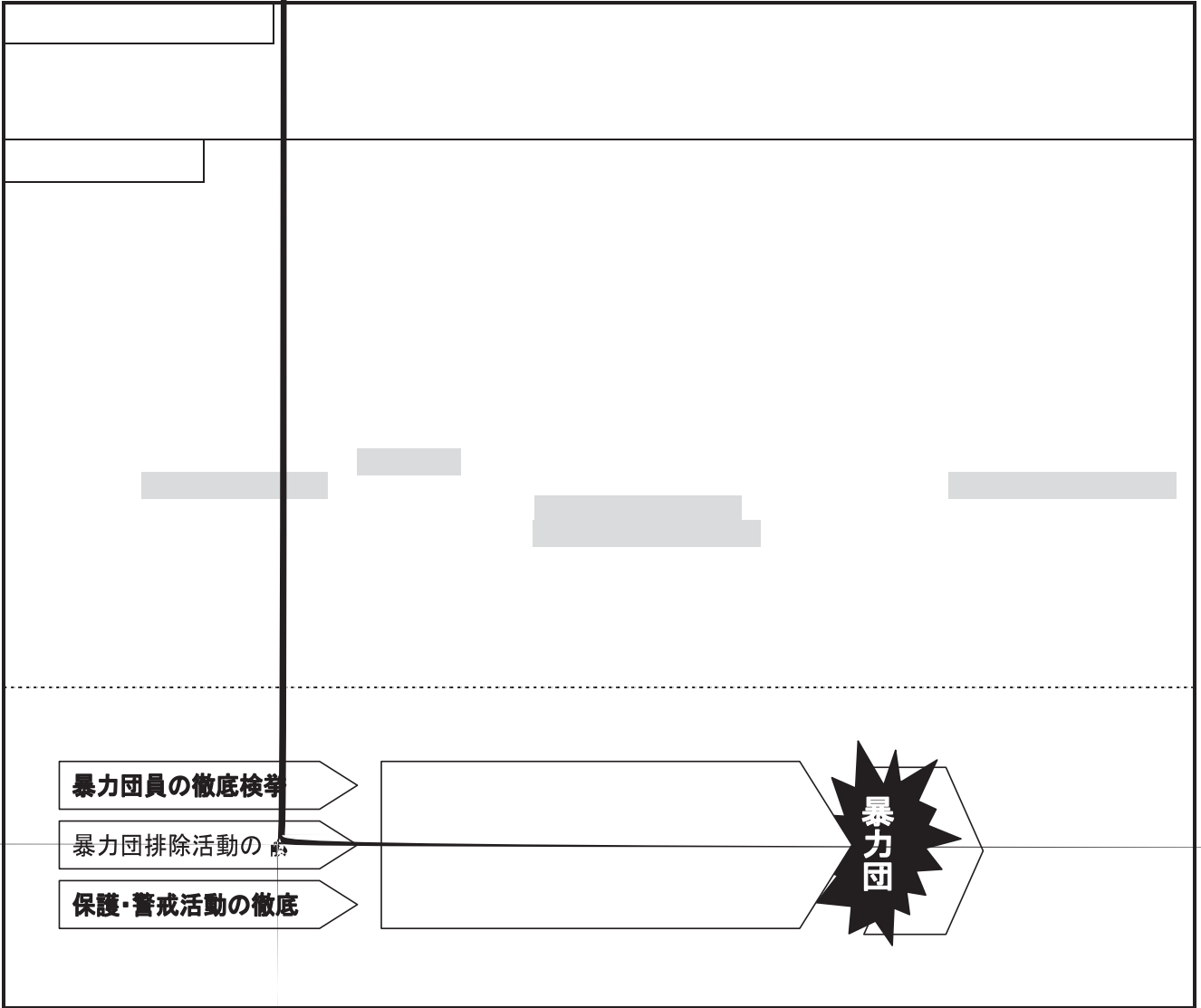

	

--	--	--	--	--	--









--	--	--	--	--	--	--	--

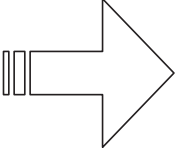




--	--

--	--	--	--	--	--


---




---

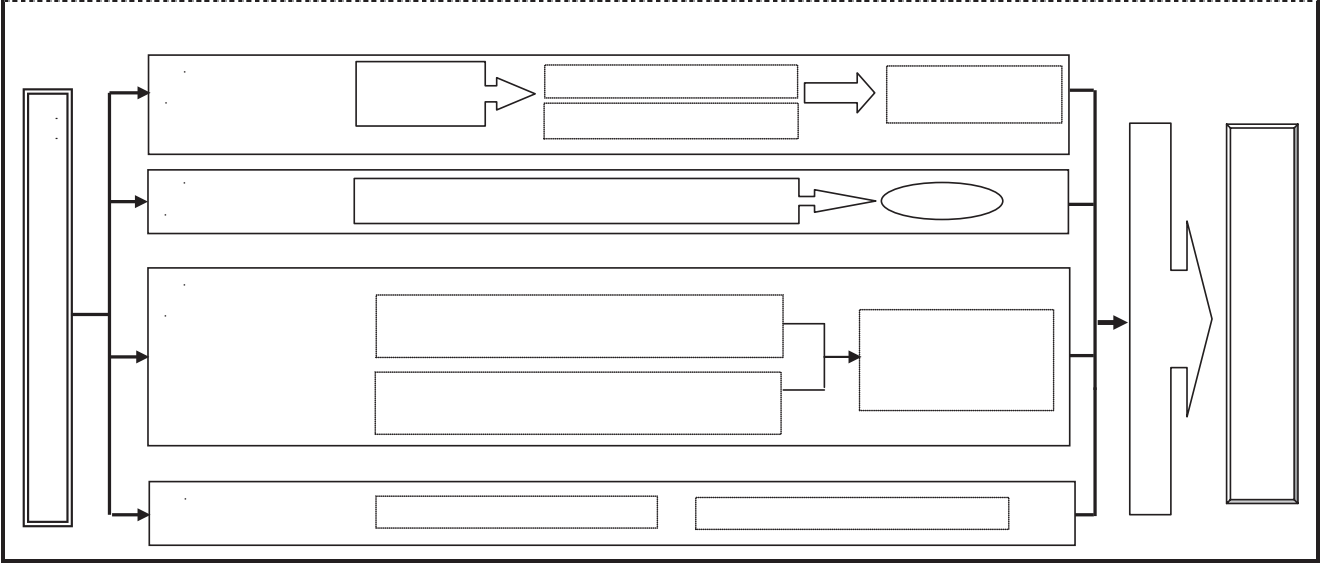




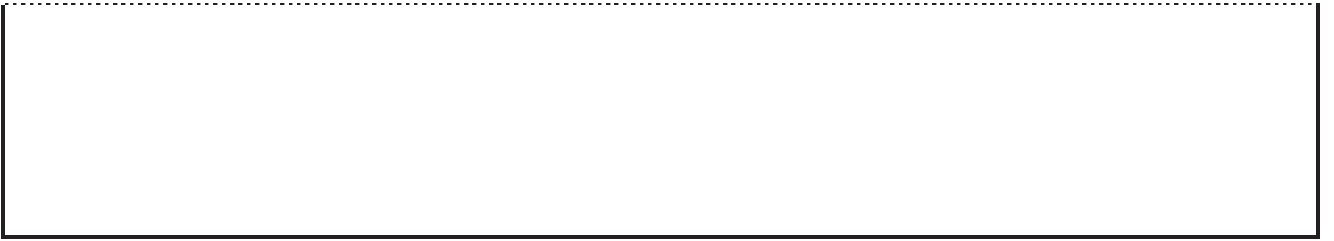
--	--	--	--	--	--


--

--



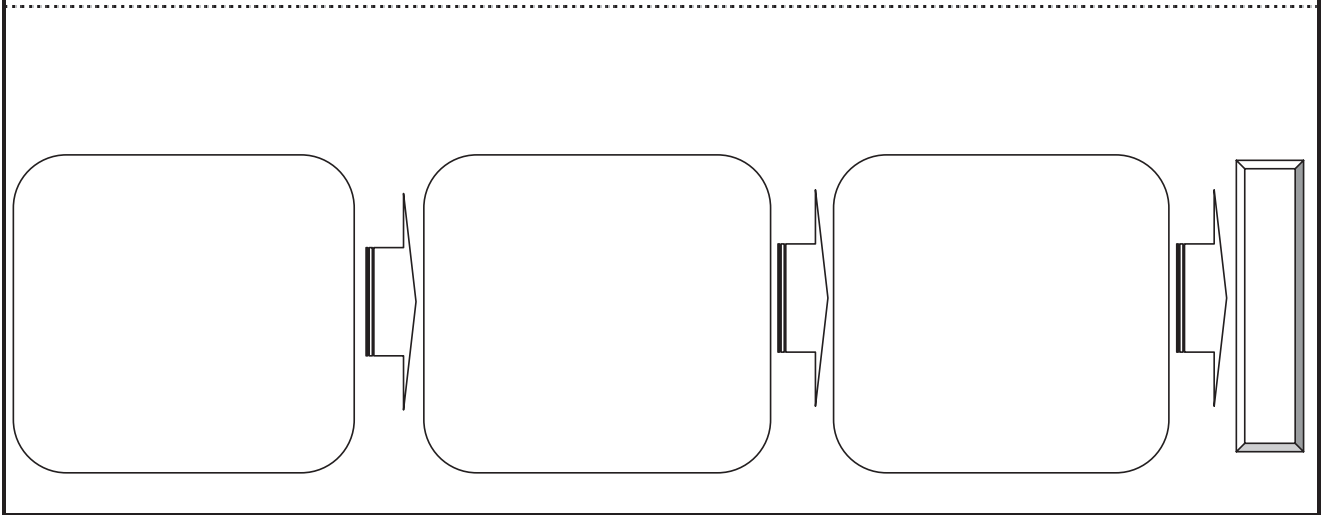
--

--	--	--	--	--	--


--

--



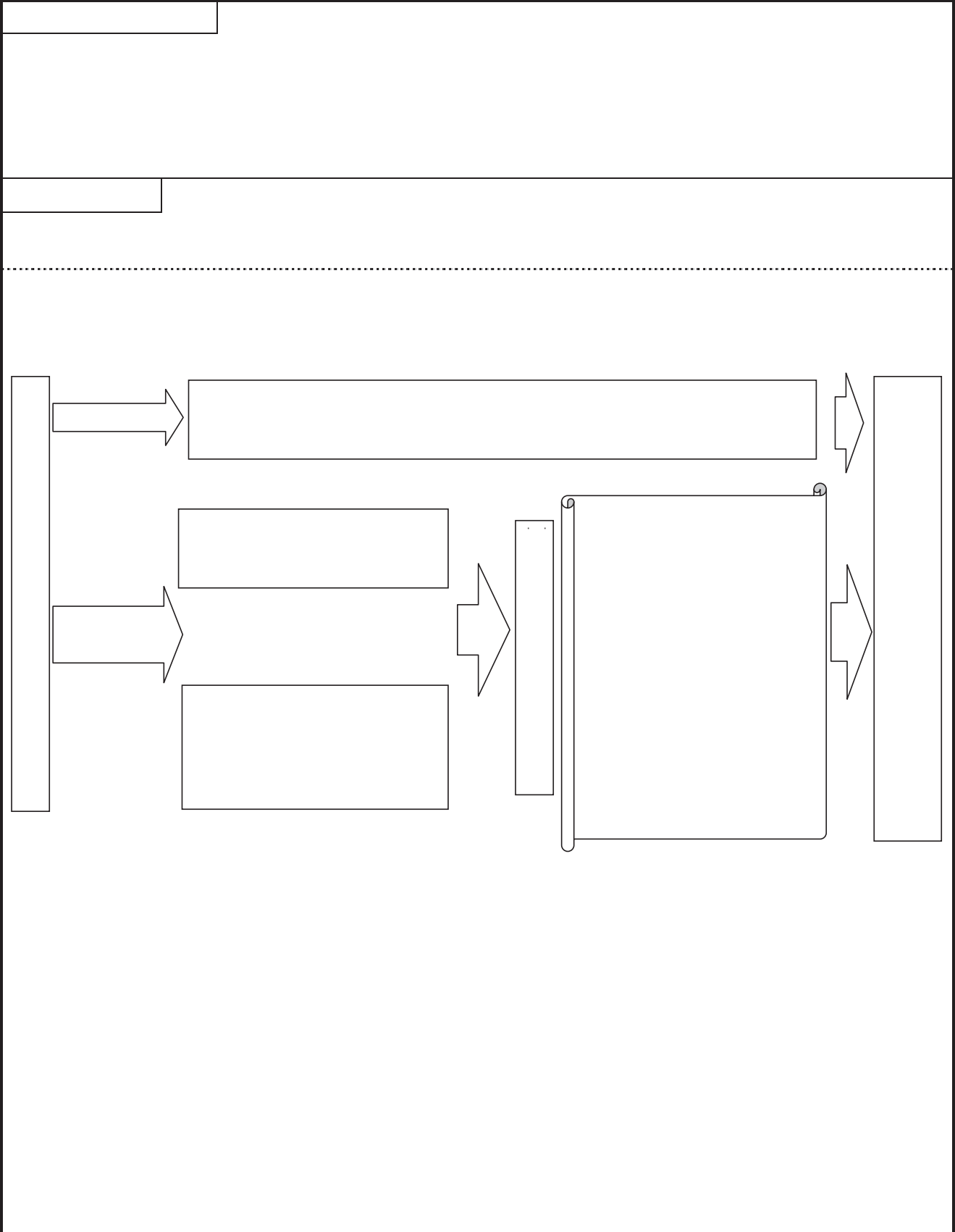
--


--



○	○

--	--	--	--	--	--


---


---



